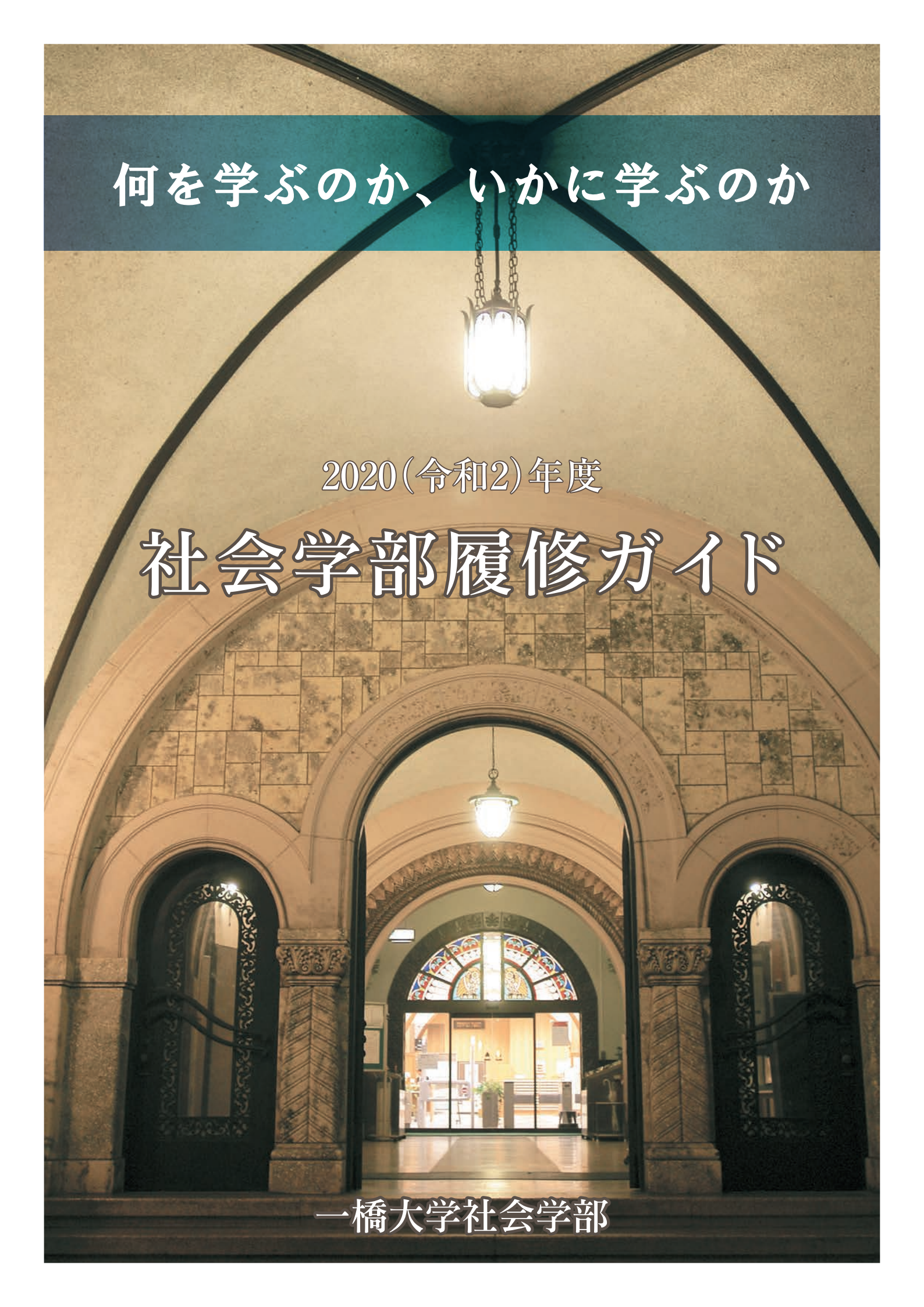




何を学ぶのか、いかに学ぶのか

2020(令和2)年度

社会学部履修ガイド

一橋大学社会学部

Contents

目 次

社会学部で学ぶ皆さんへ	1
社会学部のカリキュラムについて	4
社会動態研究分野	17
社会学・社会調査への招待	18
国際社会学へのロードマップ	21
■コラム：社会学部でのジェンダー研究の横断的学習	25
社会文化研究分野	26
社会文化研究分野案内	27
人間行動研究分野	31
社会心理学履修モデル	32
社会人類学履修モデル	33
社会地理学履修モデル	35
人間・社会形成研究分野	37
教育社会学	39
スポーツ社会学	40
政治学	41
総合政策研究分野	43
歴史社会研究分野	46
歴史社会研究の履修モデル	49
■大学院への招待	50



社会学部で学ぶ皆さんへ

社会学部長 稲 葉 哲 郎

新入生の皆さん、一橋大学社会学部へようこそ。

この小冊子は、一橋大学社会学部の皆さんの学習の手引きとして作られています。ページをめくりながら、長いようで短い四年間の大学生活についてそれぞれに見通しを持っていただきたいと思います。

「社会科学の研究総合大学」という一橋大学の特徴が一番強く表れているのが社会学部だ——私はそう感じています。社会学部は、皆さん一人ひとりが、幅広い教養を身につけ、またリサーチ・アンド・クエスチョンを重ねながら、時代に柔軟に対応し積極的に働きかけていくための自分自身の「知」の器を作りあげていく場所です。このため、1・2年次には基盤となる教養や知識、技法、視点を幅広く多面的に学びます。それらを踏まえて3・4年次では、ゼミに所属して専門的な学問を深めていきます。また、皆さんはそれぞれに自らの学習・研究活動の成果を卒業論文としてまとめていく過程で、各教員を通じて、躍動する知の最先端に触れていくことと思いますが、これも社会学部で学ぶ大きな魅力のひとつと言えるでしょう。

カリキュラムの特徴とねらい

社会学部の学生定員は2百人を超えますが、学科は社会学科の一つです。この冊子の目次が示すように、全体が大きく6つの研究分野に区切られる一方、社会学部のカリキュラムには、社会学・社会調査、国際社会学、哲学・思想、言語文化、社会心理学、社会人類学、社会地理学、教育社会学、スポーツ社会学、政治学、社会政策、歴史、ジェンダー研究といった多彩な学問分野の授業が含まれています。他大学であれば複数の学部にあたがるような多様な分野をひとつの学部で学ぶことができるのは、社会学部の大きな利点です。

社会学部生は、それら研究分野・領域のどれかに限定された形で所属することはありません。3年生からはゼミに所属することになりますが、ゼミの指導教員の研究分野・領域にもとらわれずに、いわば皆さん一人ひとりのカリキュラムを組み上げていくことになります。皆さんは数多く開講されている社会学部の科目、全学共通教育や他学部の科目から、自由に選択して自分独自の時間割を作ります。

ただし、多様性を享受し、総合性を発揮することはたやすくはありません。自己設計力が問われます。皆さんにはさまざまな探求の方法を学び、自分だったらどういう視点で社会を捉えていくか、自律的思考力を磨いていていただきたいと思います。自由度の大きさに戸惑う人たちもいるでしょう。しかし、私たち社会学部の教員は、本学部に入學してきた学生の皆さんがいろいろと迷いながらも自ら学ぶ意欲や力を十分に発揮し大きく成長していくことを、経験的に知っています。

もちろん、そうした方向性が実際に決まる時期は人によりかなりの差があります。早く決まれば、それはそれでよいでしょう。しかし、早く決まらなければならないというわけではありません。自分と社会をじっくり見つめ直しながら、いかにして自己実現していくか、4年間をかけてじっくり考えてほしいと思います。こうした時間を持てることこそ、学部時代——とりわけその最初の時期——の重要な意義であると考えます。

学年進行から見た社会学部の学び

社会学部が皆さんの学びに用意していることを、学年進行に即して示してみましょう。

1年次に用意されているのは学部導入科目です。学部導入科目は必修科目と選択科目で構成されます。学部導入科目の必修科目は、「社会研究の世界」「社会科学概論Ⅰ・Ⅱ」そして「導入ゼミナールⅠ・Ⅱ」の5科目です。「社会研究の世界」では、社会学部を構成する様々な学問分野について、各担当の教員が順次登場して紹介します。「社会科学概論Ⅰ・Ⅱ」は社会科学の考え方、問題意識や方法論の基礎を学ぶ科目で、春学期には高校から大学への転換教育を重視した「Ⅰ」を、秋学期には特定の具体的な学問分野に即した「Ⅱ」を、それぞれ複数開講される中から選んで学びます。「導入ゼミナールⅠ・Ⅱ」は、資料文献を探索する、学術書を読む、レポートや論文を書く、プレゼンテーションをするといった社会科学の学びに必要な技法の基礎を修得することを目標とした、1クラス15名程度の授業です。さらに、学部導入科目の選択科目には、「社会学概論」「哲学概論」「倫理学概論」「政治と社会」等々といった、社会科学を学ぶうえで前提となる知識や方法を学ぶことを目的とした授業が用意されています。

2年次からは学部基礎科目が用意されています。社会学部の各学問分野・研究領域を本格的に学び始める皆さん一人ひとりの選択肢は、ここで一挙に広がります。皆さんはそれらを様々に選択し、学び、試行錯誤してください。たとえば、社会科学の幅広い視点を学び取るために、6つの研究分野からそれぞれ少なくとも1つの基礎科目を履修するというの是一案です。3年次に所属しようと考えているゼミがあるなら、その先生が担当する科目や関連・周辺科目を履修してみることもお勧めします。皆さん一人ひとりが、関心と意欲にかなう学びを見つけてください。また、1年次の冬に実施される選考を経て、2年次から社会学部のグローバル・リーダーズ・プログラム（GLP）に参加することもできます。社会学部のGLPは、地球社会の様々な場で活躍する企業人、国際機関職員、研究者、ジャーナリストなどの育成をめざすプログラムで、英語を含む多言語運用能力を重視している点に特徴があります。

3年次になると学部発展科目を履修できます。まずは、2年次までの学びの成果と関わらせながら履修科目を選択し、積み重ねていくのがいいでしょう。なかには発展科目から履修を開始できる学問分野もあります。新たな挑戦を実り多いものにする、そうした選択眼を3年になるまでに養っておくことも大切です。そして、3年次の初めに皆さんは特定のゼミを選び、そこでの学習を始めます。ゼミは、指導する先生によって内容も方法も、自由度も大きく異なります。また、ゼミでは研究事例を検討したり実際に調査やデータ分析をおこなったりすることが多くなりますが、こういった学問分野・領域でもその方法と理論を具体的な経験を通じて学ぶことが重要です。

なお、社会学部では、2016年度以降の入学者を対象として、学部・大学院5年一貫教育プログラムを整備しています。一般に、学士課程が4年間で大学院修士課程が2年間であるのに対し、5年一貫教育プログラムでは5年間で学士課程と大学院修士課程を修了できます。学部3年次の冬にエントリーを受け付け、学部4年次の夏に特別選抜試験を実施します。海外に留学する場合であっても、履修の状況によっては5年間での修士号取得も可能です。皆さん一人ひとりの社会科学研究を深めるために、5年一貫教育プログラムも積極的に利用してください。

4年次は、すでに就職活動も本格化していますが、なによりゼミで指導を受けながら卒業論文を執筆する大事な年次です。卒業論文に専念することによって得るものはたくさんあります。大学院へ進学して本格的な研究を始めるという選択肢が見えてくることもあります。長い社会人生活をスタートする前の最後の年として、大切に過ごしてもらいたいと思います。

もちろん皆さんには、学部専門科目だけでなく、一橋大学の伝統である「深い教養」を提供してきた全学共通教育科目、皆さんを世界に誘う最高水準の語学教育・英語スキル科目・短期海外語学研修プログラム・HGP（英語で提供される授業科目）など、全学レベルで提供される授業や、他学部科目についても、必修・選択の如何を問わず積極的に取り組んで欲しいと思います。「学部間の垣根の低さ」もまた、一橋大学の伝統です。皆さんにはぜひ四年間で一橋大学を学び尽くして欲しいと思います。

生活の中での学び

大学での学びも、それを成り立たせている生活全体の中で考える必要があります。例えば、学費や生活費に充てるためアルバイトをするケースは少なくないでしょう。また、部活やサークル活動を熱心に行うことも、授業などでは得られない貴重な経験を与えてくれます。高校までと違って、自発的に責任をもって活動することは、仲間を作るという点でも一生の財産となるでしょう。

しかし、重要なことは、さまざまな活動に励むとしても、それは2～3に限定されるべきだろう、ということです。そして活動間のバランスを取ることが大切です。社会では「ワーク・ライフ・バランス」の重要性が指摘されるようになりました。学生生活においても、部活やダブルスクールや就活など、いくつかの活動間のバランスをうまくとってほしいと思います。

最後に強調しておきたいのは、これからの四年間を通じて何か悩みや迷い、相談ごとがあったときには、気軽に私たちにアプローチして欲しいということです。一橋大学にはさまざまな学生相談窓口があります（学生相談室、障害学生支援室、ハラスメント相談室、保健センター、留学生相談室、キャリア支援室など）。どの窓口に行くのがいいか迷ったら、とりあえずどこでも良いですから行ってみてください。そして一橋大学では、教員もまた、大教室の遠い壇上にいる存在ではありません。やがてゼミなどの少人数教育の場で、皆さんがそれを実感するのを信じています。



社会学部のカリキュラムについて

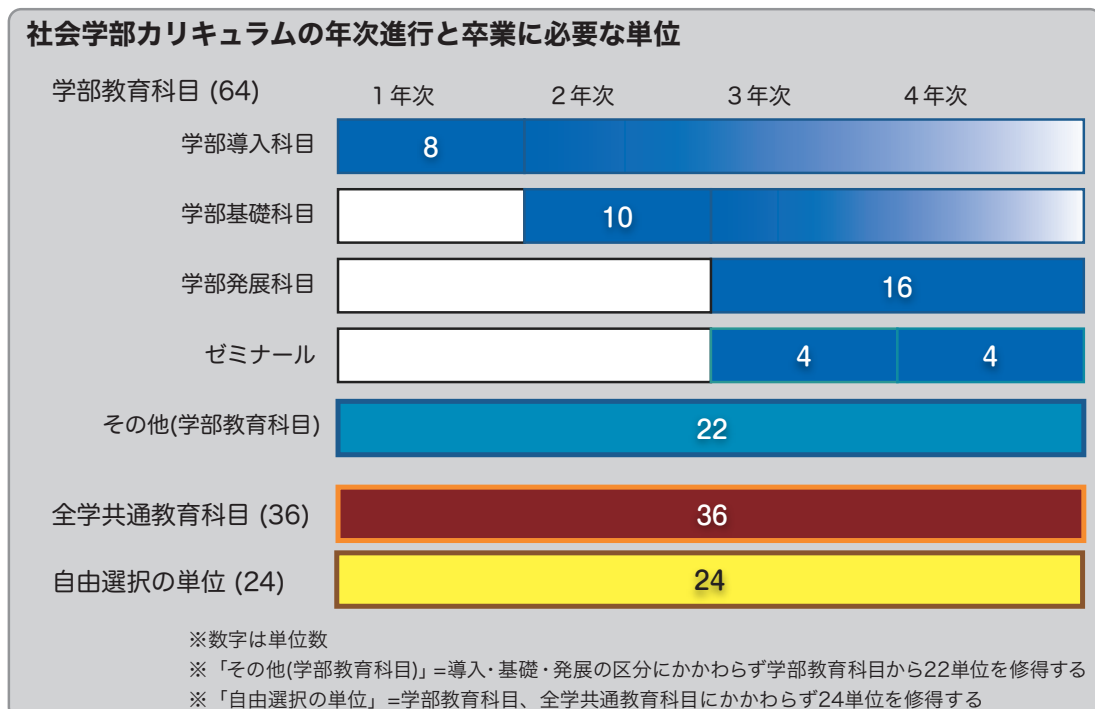
■天文学的な選択肢

社会学部のカリキュラムには、学部導入科目やゼミナールなどを除いても 100 を超える多様な科目が用意されています。しかも社会学部では、専攻やコースごとに必修科目や選択必修科目が決まっている、というようなことはありませんから、履修の選択肢は文字通り天文学的な数字になります。たとえば、カリキュラムの中核である学部基礎科目と学部発展科目の、卒業に必要な最低単位数の合計 26 単位を修得するだけでも、単純計算で 3000 兆を超える組み合わせの科目選択が可能です。実際には、年によって開講されない科目があったり、時間割の制約を受けたりしますから、このとおりにはありません。けれども、この数字はあながち誇張とも言えません。4 年の間には大部分の科目に履修機会があるでしょうし、また、卒業にはこれら 26 単位分の科目のほかに、その他の学部教育科目だけで 22 単位分の科目履修が必要だからです。選択肢は実に膨大なものになります。

こうして、社会学部の学生は、それぞれの問題意識、目的、興味関心、に応じて、ひとりひとりのいわば「マイ・カリキュラム」を組立てることができる環境にあります。ただしそれは、ややもすると散漫もしくは勤勉(!)な単位コレクターに終始して「いろいろな講義を受けたなあ…」という漠然とした感想で 4 年が終わる、という危険性も意味します。皆さんひとりひとりに、軸のしっかりした、意欲的な学修プランが出来上がることを、強く願います。

■カリキュラムの縦系と横系

まずは全体を見渡してみましょう。社会学部のカリキュラムは、学習段階／年次進行に応じて配置される「学部導入科目」(1 年次)、「学部基礎科目」(2 年次以降)、「学部発展科目」(3・4 年次)と、3・4 年次に履修する「ゼミナール」からなります。学部導入科目は、5 つの必修科目(「社会研究の世界」、「社会科学概論Ⅰ・Ⅱ」、「導入ゼミナールⅠ・Ⅱ」)と社会学部を構成する各専門分野から提供される選択科目からなり、社会科学的なものの見方・考え方への導入がなされます。学部基礎科目では各専門分野ごとの基礎的内容を、学部発展科目では応用的・先端的内容を学びます。そしてゼミナールでは、担当教員を中心とし



た少人数のクラスで、学習の定着・発展と、学生ひとりひとりの問題意識の深化・結実とを目指します。

学部導入科目は新生が社会学部で学習する姿勢作りをする機会、ゼミナールは後期課程の学生が学習の深化・高度化と集大成をはかる場です。これらは学生のそれぞれの段階の学習ベースになります。これらのベースに材料や題材を提供するのが、学部基礎科目と学部発展科目です。これらは個々の専門分野ごとに、基礎から応用・先端的領域まで、さまざまな視点・思考法・事実認識・問題提起・争点を学び、考察する機会を提供します。そして、社会学部のカリキュラムの多様性とは、学部基礎科目と学部発展科目の多様性であり、これらがカリキュラムの中核を占めています。

カリキュラムを構成するこのように多様な科目群を、縦糸と横糸という観点から見なおしてみましょう。縦糸とは各科目の学問分野・研究分野、横糸とは各科目が扱うテーマ／トピックです。

縦糸から見ていきましょう。カリキュラムを構成する科目群は多岐にわたりますが、社会学部はこれらを、背景とする学問分野や方法論の共通性・類縁性をもとに6つのグループに分類しています。**社会動態研究分野、社会文化研究分野、人間行動研究分野、人間・社会形成研究分野、総合政策研究分野、歴史社会研究分野**、の6つの研究分野です。それぞれ以下のように性格づけられています。

- (1) 狭義の社会学理論とその実証的土台をなす社会学的調査の理論と実践を研究し、さらに国際社会学の研究をカバーする「社会動態研究分野」
- (2) 哲学・倫理学・社会思想史など、社会科学の源流をなす古典文献を読みつつ、そのアクチュアリティを現代につなげようとする営み、また言語文化、言語芸術などの研究を含む「社会文化研究分野」
- (3) 社会心理学・社会人類学・社会地理学など、さまざまな空間における具体的な人間行動のありようを探る「人間行動研究分野」
- (4) 教育・政治・スポーツなど、人間および社会を積極的に形成する行為としての自由な「活動」に焦点をあてて社会を研究する「人間・社会形成研究分野」
- (5) 人口問題・高齢化社会・社会保障・労使関係・国際労働・都市地域政策など、現代社会の直面する具体的課題に対する政策上の議論を批判的に研究する「総合政策研究分野」
- (6) 古今の歴史的史料を解説する技術を学びつつ、日本・アジア・アメリカ・ヨーロッパなどの専門に分かれてその社会史・文化史を研究する「歴史社会研究分野」

これらは、個々に必修科目をもつ専攻やコースのようなものではありません。科目間の関係・まとまりを示す、履修計画を立てるためのガイドラインと考えてください。たとえば、もしもあなたが人類学に興味をもつなら、人間行動研究分野に分類されている関連科目を確認してみましょう。学部基礎科目に「社会人類学総論」、そして、学部発展科目に「エスノグラフィ」「周辺状況の諸問題」の各科目があります。複数の担当教員がそれぞれの研究フィールドと切り口を背景に交代で担当するこうした授業はあなたの興味に応じてくれるでしょう。もっとも、これらは1年次のうちは履修できないわけですが、学部導入科目にも「人類学概論」が置かれています。これを手掛かりに人類学の学習を始めましょう。また、学部教育科目にはこれらのほかにも、歴史社会研究分野の地域研究関連科目、社会動態研究分野の「宗教社会学」など、人類学を学ぶうえで参考になる関連科目があります。これらの科目を軸にして学修プランをたて、さらに3・4年次に社会人類学担当の教員のゼミナールを履修することで、あなたはあたかも社会人類学専攻コースの学生のよう

に4年間を過ごすことができるでしょう。

以上、人類学を例にあげましたが、もちろん他の学問分野でも同じことが言えます。このように特定の学問分野を軸にして作成された学修プランが、縦糸重視の「マイ・カリキュラム」です。これは、専門に特化して勉強したい学生に向いているでしょう。しかし、社会学部での学び方はこれだけではありません。各科目のテーマ／トピック、つまり、カリキュラムの横糸を重視して学修プランを立てることもできます。そし

てそれが一橋大学社会学部の特徴でもあるのです。基本的には縦系に沿ってこうと考えている学生も、常にこの横系を意識するようにしてほしいものです。ここでは、いくつかの例をあげながら説明してみます。

■履修キーワードという横系

前で説明した6つの科目群は、学問分野や方法論の共通性・類縁性をもとにした分類でした。しかし、社会でおきる現象や問題のひとつひとつが、それぞれにこの6研究分野のもっぱらどれか1つだけで研究されるということはありません。たとえば、「なぜ戦争はなくなるのだろうか」、「戦争を食い止めるためにはどうすればよいのだろうか」などと考えようとするとき、それなら「社会動態研究分野」の専門だ、とか、それなら「社会文化研究分野」は関係がない、とかいうことはできません。むしろ、6つのグループのさまざまな科目が、それぞれの仕方で「戦争」とは何かを——もちろん科目によって関わりかたに濃淡はあるでしょうが——考え、関連する研究を行っているのです。

しかし、そのことがわかっていても、実際にどの研究分野のどの科目を選んだらよいかは、授業シラバスをざっと見比べたくらいではよくわかりません。そこで社会学部では、研究の中心的なキーワードを12個選び、ひとつひとつ関連する講義科目を各年度で整理して対照表を作成しています。12ページの表の左端に並んでいる語群、すなわち、「文化」「言語・コミュニケーション」「エスニシティ」「ジェンダー・セクシュアリティ」「国家・市民社会・公共性」「情報・メディア」「人権」「福祉・ケア」「グローバリゼーション」「環境」「経済・開発」「平和・紛争・暴力」がそれらです。

■横系に沿ってプランを立てる

これら履修キーワードを使って、2020年度も社会学部のカリキュラムを横系に沿って眺めてみましょう。

たとえば、あなたが日頃から「コミュニケーションがうまくとれない」とか「言葉が上滑りしている感じがする」とか感じていて、そうした経験に関連した勉強をしたいとしましょう。この場合、そのままざり「言語・コミュニケーション」というキーワードがあります。そこから各科目群を横断する横系を辿ってみると、学部基礎科目の表からは「国際社会学ⅡA」「社会と文化A」「社会心理学Ⅰ」、また、学部発展科目の表からは「言語社会学B」「社会文化論原典講読B・D」などの科目が、あなたの選択の候補として浮かびあがります。

また、ある科目に「言語・コミュニケーション」というキーワードが付けられていないからといって、その科目が無関係だなどとすぐには判断しないでください。たとえば、教育学関係の科目は、自明の前提として、言語とコミュニケーションに関する考察を含んでいます（教育の営み自体がコミュニケーションです）。ですから履修科目の候補には、「教育の歴史B」「教育の社会学B」「比較・国際教育学」なども加えられてよいでしょう。キーワード一覧を目安として使いながら、シラバスを隅々まで熟読していけば、ほかにも関連科目が見つかるだろうと思います。ここでは「言語・コミュニケーション」を例にとりましたが、先に例示した「戦争」でも、あるいは「エスニシティ」でも「ジェンダー」でも同じことです。みなさんそれぞれに、横系を辿る工夫を試みてください。

■キーワードにあてはまらないとき

もちろん、あなたの問題意識や興味関心が、12のキーワードにあてはまらないこともあるでしょう。しかし、そうした場合もこの対照表は、あなた自身の問題意識や興味関心を整理し具体化して学修プランを立てることに役立ちます。最後にこれを例示してみましょう。たとえば、「ニート」（雇用されておらず、教育を受けているわけでもなく、職業訓練を受けてもない若者）問題が気になっているとします。キーワードに「ニート」はありません。

しかし、「ニート」を考えようすれば、労働市場や雇用が問題の背景にありそうなことはすぐにわかりますね。あるいはそれを若者の自立ということにつなげて理解することもできそうですから、家族社会学や、セクシュアリティ、またメンタル・ヘルスなどに視野を広げることできます。また、若者問題というのは、

逆に言うと老人問題——ひいては人口問題——とも連関するので、福祉やケアも無視できないでしょう。さらには、昔から日本人は家から自立するのが下手だったのでは…といった観点からみると、日本の近世史から学ぶことができるかもしれません。こういうわけで、「ニート」がどういう問題の複合なのかを考えながらキーワード対照表やシラバスを読んでいくと、さまざまな縦糸や横糸が見えてくるはずです。縦糸からみると、さしあたり総合政策研究分野や人間・社会形成研究分野の科目群が関係深いだろうと予想されます。また横糸からみれば、「ジェンダー・セクシュアリティ」「福祉・ケア」「経済・開発」といったあたりが注目されます。

こうやって、縦糸と横糸のクロスするところを探していくわけです。その結果、たとえば「雇用関係総論」「社会政策総論」「生活保障論」…といった総合政策研究分野の一連の科目がたちどころにリストアップされることになります。それに加えて、「スポーツ社会学の基礎」や「比較政治」などが視野に入ります。

■グローバル・リーダーズ・プログラムが世界への扉を開く！

社会学部では、2017年度よりグローバル・リーダーズ・プログラム（GLP）を開始しました。このプログラムの目的は、現代社会が直面している課題に対し、グローバルな市民社会のリーダーを育成することにあります。そのため、英語および英語以外の外国語の運用能力を鍛えるとともに、地球規模の課題の解決に挑むための教養・思考力・構想力・実行力を涵養するプログラムになっています。少人数による「GLP セミナー I・II」やレクチャーシリーズを自ら企画する「企画と実践・Planning I・II」といった英語の活用に重点を置いた授業も用意されています。

GLP に指定された授業を履修すると「GLP 修了証書」が授与されます。修了要件は、① GLP 指定科目 36 単位を修得、② 4 か月以上の海外留学、③ 社会学部の卒業要件を満たす、です。また、GLP 選抜学生にも、学部・大学院 5 年一貫教育プログラムによる修士号取得の道が開かれています。

GLP には、1 年次終了時に 12 名程度が選抜されます。例年 11 月より出願案内が公開され、1 月上旬に出願に必要な資料を提出します。1 月下旬に第 1 次審査（書類選考）を実施、2 月上旬に第 2 次審査（面接試験）を実施、3 月中旬に最終合格者を発表します。このスケジュールは年度によって変更があるかもしれません。社会学部の HP で最新の情報を確認してください。

■学部・大学院修士課程5年一貫教育プログラム

一橋大学大学院社会学研究科は、学部と大学院修士課程での教育をより密接に接続することによって、研究者または高度職業人を目指す優秀な社会学部在籍者が、より専門的な教育を受け、かつ、早期のキャリアアップを可能にするため、2019 年度より「学部・大学院修士課程 5 年一貫教育プログラム」を開始しました。このプログラムにより、学部 4 年次に大学院の授業の正規履修が可能となるだけでなく、修士課程を実質的に 1 年間で修了することが可能になります。

学部教育と大学院教育を融合させた密度の濃い教育によって、高度職業人をを目指す学生にとっても研究者を目指す学生にとっても、個々のキャリア形成において求められる専門知識、思考力、分析力、アウトプット力を短期間で修得することができるプログラムです。本プログラムの履修を希望する学生は、社会学部 3 年次の 1 月に選抜試験を受験し、合格する必要があります。選抜試験に合格してプログラム履修資格者となった学生は、学部 4 年次に学部授業だけでなく大学院授業を履修することができます。プログラム履修資格者は、学部 4 年次修了時に卒業論文を含む学部卒業単位を取得して学士号（「学士（社会学）」）を取得します。大学院教育のカリキュラムとしては、概ね学部 4 年次は修士課程 1 年次、修士課程 1 年次は同 2 年次と同等とみなし、修士課程の必修科目はそれに基づき履修します。プログラム履修資格者は、学部 4 年次に社会学研究科大学院修士課程入学試験を受験し合格することで、修士課程 1 年間在学での修士号（「修士（社

会学)」) 取得の資格が与えられます。

詳しい情報は社会学研究科の HP をご覧ください。

■あなただけの「マイ・カリキュラム」を

ひと言で「問題意識」といっても、漠然としたものから、極めて特殊で明確なものまで、いろいろあるでしょう。200 人の学生がいれば 200 の問題意識があって不思議ではありません。あるいは、ひとりの頭のなかにいくつかの問題意識がひしめきあっているというのもよくあることです。それらひとつひとつに対応するカリキュラムを例示することはできませんが、上の例を参考にして、自分にとってもっとも切実な問題をあぶりだし、それを社会学部の科目群やキーワードに翻訳すると何になるのかを考えてみてください。そうやって、横糸と縦糸をクロスさせながら、あなただけの「マイ・カリキュラム」を編み上げていってください。

「あなたが何を食べたかで、あなたがどういう人かが判断できる」といったのは、フランスの食通ブリヤ・サヴァラン [1755 – 1826] ですが、そのひそみにならえば、「あなたがどういうカリキュラムを組み立てたかで、あなたがどういう人かが分かる」と言えるかもしれません。そして、そのカリキュラムが適切に選ばれたならば、あなたの知的好奇心はもっともよく満たされることでしょう。あなたの旺盛な知的食欲と、賢明なメニュー選択を期待します。



社会学部教員一覧

専門分野・研究領域

2020年度担当の学部教育科目

社会動態研究分野

町村 敬志 特任教授	社会学・社会調査	社会科学概論Ⅰ、社会調査法Ⅱ、地域・都市社会学
菊谷 和宏 教授	社会学、社会学史・学説	社会科学概論Ⅰ、社会研究入門ゼミナール、社会学史
多田 治 教授	社会学	社会学概論、社会学理論
深澤 英隆 特任教授	宗教学・宗教社会学	導入ゼミナール、宗教社会学Ⅰ、宗教社会学Ⅱ
小林 多寿子 特任教授	社会調査・社会学	導入ゼミナール、社会調査論、質的調査研究
小井土 彰宏 教授	国際社会学	Introductory Seminar to Social Research in English、国際政治社会学
佐藤 文香 教授	ジェンダー研究	—

社会文化研究分野

森村 敏己 教授	社会思想史、18世紀フランス思想	社会研究入門ゼミナール、社会思想史A、社会思想史原典講読A
井頭 昌彦 教授	分析哲学、科学哲学	社会科学概論Ⅱ、社会哲学
井川 ちとせ 教授	英語圏文芸思想	社会文化論原典講読B
久保 哲司 教授	独語圏文芸思想	社会文化論原典講読D
中野 知律 教授	仏語圏文芸思想	社会思想史原典講読B
洪 郁如 教授	台湾社会文化論	文化生成研究
五十嵐 陽介 教授	言語学・音声学・ロシア語学	ことばと社会

人間行動研究分野

安川 一 教授	社会心理学、視覚社会学	社会心理学Ⅰ（社会的分野）、コミュニケーション論
宮本 百合 教授	社会心理学、文化心理学	社会心理学Ⅱ（心理的分野）、Cultural Psychology
稲葉 哲郎 教授	社会心理学、政治コミュニケーション	ジャーナリズム実践論Ⅰ
大杉 高司 教授	社会人類学、ラテンアメリカ・カリブ地域研究	社会人類学総論B、現代人類学特論B
久保 明教 准教授	社会人類学、科学技術社会論	人類学概論、社会人類学総論A
上田 元 教授	社会地理学、アフリカ地域研究	地球社会の課題A、社会開発論B、国際開発論A
大坪 俊通 教授	地球科学、宇宙測地学	—
大瀧 友里奈 教授	環境科学	—

人間・社会形成研究分野

木村 元 教授	教育社会学	社会研究入門ゼミナール、教育の歴史B、教育研究法C
中田 康彦 教授	教育社会学	教育の社会学B、教育政策
山田 哲也 教授	教育社会学	教育と社会、教育社会学特論
太田 美幸 教授	教育社会学	比較・国際教育学
尾崎 正峰 教授	スポーツ社会学	—
坂上 康博 教授	スポーツ社会学	スポーツ社会学の基礎、スポーツの歴史
坂 なつこ教授	スポーツ社会学	スポーツ社会学の基礎
鈴木 直文 教授	スポーツ社会学	スポーツ社会学の基礎、スポーツと開発
中北 浩爾 教授	政治学	政治学、政治過程論、現代労働組合論
田中 拓道 教授	政治学	導入ゼミナール、政治思想、比較政治

総合政策研究分野

猪飼 周平 教授	社会政策研究、ヘルスケア政策	導入ゼミナール、生活保障論、社会政策特論
白瀬 由美香教授	社会福祉研究	導入ゼミナール、社会福祉
西野 史子 教授	労働社会学	社会科学概論Ⅱ、雇用関係特論
堂免 隆浩 教授	社会組織研究、都市・地域政策	導入ゼミナール、都市・地域政策総論、都市・地域政策特論、不動産の社会科学

歴史社会研究分野

渡辺 尚志 教授	社会史日本	導入ゼミナール、社会研究入門ゼミナール
若尾 政希 教授	社会史日本	社会史史料講読 (日本) B
石居 人也 教授	社会史日本	社会研究入門ゼミナール、社会史史料講読 (日本) A、日本社会史総論A
佐藤 仁史 教授	社会史アジア	導入ゼミナール、社会研究入門ゼミナール、社会史史料講読 (アジア) B、アジア社会史特論B
加藤 圭木 准教授	社会史アジア	導入ゼミナール、社会史史料講読 (アジア) A、アジア社会史総論A
阪西 紀子 教授	社会史ヨーロッパ	導入ゼミナール、社会史史料講読 (ヨーロッパ) B、ヨーロッパ社会史総論B
秋山 晋吾 教授	社会史ヨーロッパ	—
中野 聡 教授	社会史アメリカ	導入ゼミナール、アメリカ社会史特論B
貴堂 嘉之 教授	社会史アメリカ	—

赤嶺 淳 教授	グローバル地域研究、地球環境学	社会研究入門ゼミナール、海外短期調査、Topics in Global Studies I A
足羽 與志子教授	平和社会学・文化人類学	—
福富 満久 教授	国際政治学・国際関係論	導入ゼミナール、国際正義論
宮地 尚子 教授	文化精神医学	導入ゼミナール
ジョナサン・ルイス教授	政治学	Online Media Studies、Media Research Methods
橋本 直子 教授	GLP担当	GLPセミナー、企画と実践・Planning I・II、Refugee and Forced Migration Studies

2020 年度版社会学部・学部教育科目履修ガイド (履修キーワードと科目群)

[学部基礎科目]

※すべての開講科目が掲載されているわけではありません。
※詳しくは各科目のウェブシラバスを参照して下さい。

	社会動態研究分野	社会文化研究分野	人間行動研究分野	人間・社会形成研究分野	総合政策研究分野	歴史社会研究分野	科目群外講義分野
文 化	社会学理論 宗教社会学Ⅰ 社会調査論 国際社会学ⅡA	社会思想B 社会と文化A 社会哲学A	社会人類学総論B	教育の社会学B 教育の歴史B		社会史史料講読(日本)A 社会史史料講読(アジア)B 社会史史料講読(ヨーロッパ)B 日本社会史総論A ヨーロッパ社会史総論B	English Skills for Social Sciences
言 語・コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	社会調査論 国際社会学ⅡA	社会と文化A	社会心理学Ⅰ(社会的分野) 社会人類学総論B			社会史史料講読(日本)A 社会史史料講読(アジア)B 社会史史料講読(ヨーロッパ)B ヨーロッパ社会史総論B	English Skills for Social Sciences
エ ス ニ シ テ イ	宗教社会学Ⅰ 社会調査論 国際社会学ⅡA		社会人類学総論B				English Skills for Social Sciences
ジェンダー・セクシュアリティ	社会調査論 国際社会学ⅡA	社会と文化A	社会人類学総論B	政治思想		日本社会史総論A アジア社会史総論A ヨーロッパ社会史総論B	English Skills for Social Sciences
国 家・市 民 性 社 会・公 共 性	社会学理論 社会学史 宗教社会学Ⅰ 国際社会学ⅡA			政治思想	都市・地域政策総論	日本社会史総論A アジア社会史総論A	不動産の社会科学(三井不動産寄附講義) English Skills for Social Sciences
情 報・メ デ ィ ア	社会学理論 社会調査法Ⅱ 社会調査論					社会史史料講読(日本)A	Data Processing for Social Sciences (Introduction)
人 権	社会調査論 国際社会学ⅡA			教育の社会学B 政治思想		日本社会史総論A アジア社会史総論A	不動産の社会科学(三井不動産寄附講義) English Skills for Social Sciences
福 祉・ケ ア	社会調査論 国際社会学ⅡA			教育の社会学B	都市・地域政策総論		不動産の社会科学(三井不動産寄附講義) English Skills for Social Sciences
グ ロー バ リ ゼ ー シ ョ ン	宗教社会学Ⅰ 国際社会学ⅡA		地球社会の課題A	教育の社会学B 政治思想	都市・地域政策総論	アジア社会史総論A	不動産の社会科学(三井不動産寄附講義)
環 境	社会調査論				都市・地域政策総論		不動産の社会科学(三井不動産寄附講義)
経 済・開 発	社会学理論		地球社会の課題A		都市・地域政策総論		不動産の社会科学(三井不動産寄附講義)
平和・紛争・暴力	宗教社会学Ⅰ 社会調査論 国際社会学ⅡA					アジア社会史総論A	
	社会動態研究分野	社会文化研究分野	人間行動研究分野	人間・社会形成研究分野	総合政策研究分野	歴史社会研究分野	科目群外講義分野

[学部発展科目]

※すべての開講科目が掲載されているわけではありません。
※詳しくは各科目のウェブシラバスを参照して下さい。

	社会動態研究分野	社会文化研究分野	人間行動研究分野	人間・社会形成研究分野	総合政策研究分野	歴史社会研究分野	科目群外講義分野
文 化	社会の構造と変動D 宗教社会学Ⅱ 質的調査研究 国際社会と文化A 国際政治社会学	社会思想史A 言語社会学B 社会思想史原典講読A 社会文化論原典講読D 言語社会学特論B	コミュニケーション論 エスノグラフィB	スポーツの歴史 教育研究法C 比較・国際教育学		アジア社会史特論B	
言 語 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	宗教社会学Ⅱ 質的調査研究 国際社会と文化A	言語社会学B 社会文化論原典講読B 社会文化論原典講読D 言語社会学特論B	コミュニケーション論	教育研究法C 比較・国際教育学			発信英語力A (Discussion & Presentation) 発信英語力D (Academic Writing 1)
エ ス ニ シ テ ィ	国際社会と文化A 国際政治社会学		エスノグラフィB	教育研究法C 比較・国際教育学 スポーツと開発 比較政治			Refugee and Forced Migration Studies
ジ ェ ン ダ ー ・ セ ク シ ュ ア リ テ ィ	質的調査研究	社会文化論原典講読B 社会文化論原典講読D	社会開発論B	スポーツの歴史 教育研究法C 比較・国際教育学 スポーツと開発 比較政治	雇用関係特論		Refugee and Forced Migration Studies
国 家 ・ 市 民 社 会 ・ 公 共 性	社会の構造と変動D 宗教社会学Ⅱ 質的調査研究 国際社会と文化A 国際政治社会学	社会思想史A 社会思想史原典講読A 社会文化論原典講読B	国際開発論A	教育研究法C 教育政策 比較・国際教育学 スポーツと開発 比較政治	雇用関係特論 社会福祉 都市・地域政策特論		Refugee and Forced Migration Studies
情 報 ・ メ デ ィ ア	宗教社会学Ⅱ 質的調査研究	社会文化論原典講読B		教育研究法C			
人 権	宗教社会学Ⅱ 質的調査研究 国際社会と文化A 国際政治社会学			教育研究法C 教育政策 比較・国際教育学 スポーツと開発	社会福祉 都市・地域政策特論		Refugee and Forced Migration Studies
福 祉 ・ ケ ア	質的調査研究			教育研究法C 比較政治	雇用関係特論 社会福祉 都市・地域政策特論		
グ ロ ー バ リ ゼ ー シ ョ ン	宗教社会学Ⅱ 国際社会と文化A 国際政治社会学		国際開発論A 社会開発論B	教育研究法C 比較・国際教育学 スポーツと開発 比較政治	雇用関係特論 都市・地域政策特論		Refugee and Forced Migration Studies
環 境	地域・都市社会学 質的調査研究		国際開発論A 社会開発論B		都市・地域政策特論		Refugee and Forced Migration Studies
経 済 ・ 開 発	地域・都市社会学 国際政治社会学		国際開発論A 社会開発論B	比較・国際教育学 スポーツと開発	都市・地域政策特論	アジア社会史特論B	
平和・紛争・暴力	宗教社会学Ⅱ 質的調査研究 国際社会と文化A 国際政治社会学		国際開発論A	スポーツと開発			Refugee and Forced Migration Studies
	社会動態研究分野	社会文化研究分野	人間行動研究分野	人間・社会形成研究分野	総合政策研究分野	歴史社会研究分野	科目群外講義分野

社会学部科目（2020 年度非開講のものも含まれます）

学部導入科目		
社会研究の世界 導入ゼミナールⅠ・Ⅱ 社会科学概論Ⅰ・Ⅱ 社会研究入門ゼミナール Introductory Seminar to Social Reserch in English 社会学概論 哲学概論 倫理学概論 人類学概論 教育と社会 政治と社会		
	学部基礎科目	学部発展科目
(社会動態研究分野)	社会学理論 社会学史 宗教社会学Ⅰ 社会調査論 社会調査法Ⅰ 社会調査法Ⅱ 量的データ解析法Ⅰ 国際社会学ⅠA・ⅠB 国際社会学ⅡA・ⅡB	社会の構造と変動A・B・C・D 地域・都市社会学 宗教社会学Ⅱ 家族社会学 質的調査研究 量的データ解析法Ⅱ 社会調査特別演習 国際社会と文化A・B 国際社会の課題A・B 国際政治社会学
(社会文化研究分野)	社会哲学A・B 社会倫理学 社会思想A・B 社会と文化A・B・C・D ことばと社会	倫理学特論 哲学特論A・B 社会哲学原典講読A・B・C 社会思想史A・B 社会思想史原典講読A・B 社会文化論原典講読A・B・C・D 言語社会学A・B 言語社会学特論A・B
(人間行動研究分野)	社会心理学Ⅰ(社会的分野) 社会心理学Ⅱ(心理的分野) マスコミュニケーション基礎論 社会人類学総論A・B・C 地球社会の課題A・B 地域研究A・B	コミュニケーション論 対人関係心理学 マスコミュニケーションの諸問題 エスノグラフィA・B・C 社会人類学特論A・B 周辺状況の諸問題A・B・C 国際開発論A・B 社会開発論A・B Cultural Psychology

	学部基礎科目	学部発展科目
(人間・社会形成研究分野)	教育の社会学A・B 教育の歴史A・B スポーツ社会学の基礎 政治学 政治史 政治思想	教育研究法A・B・C 教育政策 比較・国際教育学 教育社会学特論 スポーツ政策論 スポーツ文化論 スポーツの歴史 スポーツと開発 比較政治 政治過程論 政治学特論
(総合政策研究分野)	社会政策総論 生活保障論 雇用関係総論 産業・労働社会学総論 人間環境論 都市・地域政策総論	社会政策特論 社会福祉 雇用関係特論 産業・労働社会学特論 コミュニティ政策論 都市・地域政策特論
(歴史社会研究分野)	社会史史料講読(日本)A・B・C 社会史史料講読(アジア)A・B 社会史史料講読(ヨーロッパ)A・B 日本社会史総論A・B・C・Z アジア社会史総論A・B ヨーロッパ社会史総論A・B アメリカ社会史総論A・B	日本思想史特論A・Z 日本社会史特論A・B・C・Y・Z アジア社会史特論A・B・Z ヨーロッパ社会史特論A・B・Z アメリカ思想史特論A・B・Y・Z Topics of Modern and Contemporary History A・Z
(科目群外講義)	ジェンダーと社会 現代労働組合論(連合寄附講義) 不動産の社会科学(三井不動産寄附講義) GLPセミナーI 海外短期調査 Topics in Global Studies I A・I B Data Processing for Social Sciences(Introduction) English Skills for Social Sciences Topics in Social Sciences I Topics in Social Sciences II Topics in Social Sciences III	ジェンダー論 労働とジェンダー ジェンダー特論 クィア理論 ジェンダーとセクシュアリティの心理学 異文化理解の理論と実践 ジャーナリズム実践論I・II(朝日新聞寄附講義) 企画と実践・Planning I・II 国際正義論 国際政治原典講読(フランス語) Online Media Studies Media Research Methods Statistics for Social Sciences Data Processing for Social Sciences(Intermediate) デジタルメディアの実践I・II GLPセミナーII A・II B 企画と実践・Planning I・II Topics in Global Studies II A・II B Refugee and Forced Migration Studies 地球社会特別演習I・II 発信英語力A(Discussion & Presentation) 発信英語力D(Academic Writing 1)

社会学部教員が担当する主な全学共通教育科目
教養ゼミナール EU入門 心理学

語学等、上記以外にも社会学部教員が担当している全学共通教育科目があります。

・ 社会動態研究分野 ・

「社会動態研究分野」という研究分野は、社会学・社会調査、国際社会学から構成されており、社会の構造と文化をその動態（ダイナミクス）という側面から総合的に明らかにし、学んでいくためのユニットです。



Social Dynamics

——現代社会の様々な
フィールドから

足下にある都市の現実を見つめ

一極集中の進む中、東京の
中の格差も見逃せない



日本の周辺から考え

(上) 沖縄の海、(下) 基地問題について
地元の人に耳を傾ける社会学部生たち



国境を越えて調査する

(左) EU最南部のカナリア諸島には多くの青少年を含むアフリカ系移民が漂着し、その規制と若者の適応支援が同時に進んでいる

(右) ジブラルタル海峡の南、スペイン領セウタとモロッコの国境：EUとアフリカの接点は人の移動の規制と商業的取引の活発さの2つの顔を見せている

社会学・社会調査への招待

1 社会学・社会調査の考え方

社会学とは、「幅広い社会現象を、人間生活の共同という視角から研究する社会科学の一分野」です。社会学は、ミクロからマクロに至るまで、実にさまざまな社会現象に取り組んでいます。しかしそれらはいずれも、次の3つの問いに対する答えを探っている、と言えるでしょう。

第一の問い： 人はなぜ、共同し合うのか？

人間は、共同することによって、一人では実現できなかった大きな夢や目標を達成することが可能になる。それを支える仕組みとはいったい何か。人々を「つなげる」ものとは何か。

第二の問い： 人はなぜ、自分で作ったはずの社会によって、逆に不自由になってしまうのか？

しかし、こうして生まれた仕組みは、いつの間にか人間にとって疎遠なものとなり、むしろ多くの不自由をもたらす固い殻（＝構造）になってしまう。それはなぜか。

第三の問い： 人はどのようにして、社会を変えていくことができるのか？

冷たく固い殻になってしまった社会を、人はいかに変えていくことができるのか。そのための条件とはいったい何だろうか。

社会調査とは、社会学徒のみならずひろく社会学者が、社会の仕組みや人びとの暮らしの現実をさぐり、人間の行為とそれを支える論理に分け入っていくため、対象について調査・観察し、その結果を記述・分析していく営みと方法のことです。

以下、社会学と社会調査に分けて、それぞれの学び方、履修ガイドを示していきます。

2 社会学の学び方

上の課題に取り組み、それを深めていくために、社会学では、次の3つの科目群を並行して学ぶことが求められます。

- 1) 社会学的思考法の歴史、理論的基礎に関する科目群
- 2) フィールドワーク、統計分析、テキスト分析など社会分析・社会調査に関する科目群
- 3) 各自が関心をもつテーマ・分野に関する知識を深める科目群

これらの組み合わせ方は、各自が選ぶ研究テーマによって違いがあるでしょう。

各自の研究テーマの例

- ◎一つの分野を掘り下げる：
社会学理論、社会学史・学説、階級、ジェンダー、都市・地域、エスニシティ、労働、宗教…
- ◎社会の問題・課題から出発する：
差別と格差、パブリックスペースの可能性、「生きづらさ」を考える…
- ◎領域を超える：
宗教と心理、建築と社会、観光と開発、都市とグローバル化…

【履修のガイド】

- ・ 共通科目は、社会学を学ぶ上でもっとも基礎となる科目群です。
- ・ 個別分野科目は、個人の関心の方向に応じて社会学の各領域を究めるための履修上の目安です。
- ・ 実際には、〈構造と問題〉〈現場と実証〉〈心性と文化〉という領域を2つ以上横断しながら、自分の関心を深め、分析方法を磨いていくことを勧めます。

	社会学に關係する科目				関連科目
	共通科目	個別分野科目			
1 年	社会科学概論Ⅰ・Ⅱ 社会学概論				導入ゼミナール 社会研究入門ゼミナール 教養ゼミナール
2 年	社会学理論 社会学史 社会調査論	〈構造と問題〉	〈現場と実証〉	〈心性と文化〉	社会研究入門ゼミナール マスコミュニケーション基礎論 スポーツ社会学の基礎
		ジェンダーと社会 国際社会学Ⅰ・Ⅱ 教育の社会学 産業・労働社会学総論 政治学	社会調査法Ⅰ・Ⅱ 量的データ解析法Ⅰ	宗教社会学Ⅰ 社会思想 ことばと社会 社会心理学Ⅰ (社会的分野)	
3 年	社会の構造と変動 ゼミナール	地域・都市社会学 家族社会学 ジェンダー論 産業・労働社会学特論 政治過程論	質的調査研究 量的データ解析法Ⅱ	宗教社会学Ⅱ 社会思想史 言語社会学 言語社会学特論	国際政治社会学 スポーツ文化論 コミュニケーション論 法社会学（法）
4 年	ゼミナール 卒業論文	同上	同上	同上	同上

注：・ 学年配当は一応の目安です。学部基礎科目・学部発展科目など学年指定がある場合に注意。

- ・ 社会学を学ぶ上で役に立つ関連科目等（他学部を含む）も含めてあります。
- ・ このほか、特定の地域や時代を研究対象とする場合は、関連する外国語、文化、歴史に関する科目を履修することが望まれます。

【おもな参考文献】

①社会学の全体像を知りたい方へ

長谷川、浜、藤村、町村『社会学 新版』有斐閣、2019年
 アンソニー・ギデンズ『社会学』（第5版）松尾精文他訳 而立書房、2009年
 玉野和志『ブリッジブック 社会学』（第2版）信山社、2016年
 メレディス・B・マクガイア『宗教社会学』山中弘他訳 明石書店、2008年

②参考図書

『社会学小辞典 新版増補版』有斐閣、2005年
 『社会学文献事典 縮刷版』弘文堂、2014年
 『現代社会学事典』弘文堂、2012年
 『コミュニティ事典』春風社、2017年
 『社会調査事典』丸善、2014年
 『現代宗教事典』弘文堂、2005年
 『宗教学事典』丸善、2010年

3 社会調査の学び方

《何が本当の問題か。それは誰の問題か。どこで探究すべきか》：この問いは、社会調査・社会観察によって社会的現実を経験的・実証的に解き明かそうとする際に誰もが直面する基本問題です。自らに解き明かしたい問題があってはじめて、社会調査は成り立ちます。一人ひとりの「生活世界」の外側に飛び出して、観察者・調査者の視点から、ものごとを見つめてみましょう。

【履修のガイド】

社会現象は多様性に満ちあふれています。それに迫っていくための方法も、マルチメソッドな（質的かつ量的な方法を統合する）アプローチが必要です。また、巷に溢れるデータを批判的に読み取り、さらに自らの手で社会的・歴史的に意味のある社会調査を行えるようになるには、社会調査に関するリテラシーをしっかりと身につけることが求められています。

一橋大学社会学部では、社会調査に必要な科目を多面的に学ぶカリキュラムを用意しています。一般社団法人社会調査協会が認定する「社会調査士」という資格制度にも対応したカリキュラムとなっていますので、これらの科目を系統的に学ぶことで社会調査のリテラシーを習得するだけでなく、社会調査士の資格取得の申請も可能になっています。

一般社団法人社会調査協会が定めている社会調査士の「標準カリキュラム」（A～G）と、2020年度、社会学部で開講する科目との対応関係はつぎのようになります。（科目認定申請の結果は追って開示）。

学部基礎科目	社会調査論	A. 社会調査の基本的事項に関する科目	（春夏・2単位）
〃	社会調査法Ⅰ	B. 調査設計と実施方法に関する科目	（春夏・2単位）
〃	社会調査法Ⅱ	C. 基本的な資料とデータの分析に関する科目	（秋冬・2単位）
〃	量的データ解析法Ⅰ	D. 社会調査に必要な統計学に関する科目	（春夏・2単位）
学部発展科目	量的データ解析法Ⅱ	E. 多変量解析の方法に関する科目	（秋冬・2単位）
〃	質的調査研究	F. 質的な調査と分析の方法に関する科目	（秋冬・2単位）
		G. 社会調査を実際に経験し学習する科目	（通年・4単位）
3年演習（赤嶺・石居・小井土・小林・堂免・町村・山田ゼミ）			

基礎科目と発展科目の配置、ならびに各科目の開講予定（毎年開講されるものと1年おきに開講されるもの、特定の年度のみ開講されるものがある）を考慮しながら、履修計画を立ててみるとよいでしょう。

この資格取得について詳しくは、本学社会調査士／専門社会調査士資格制度ホームページ（<http://www.soc.hit-u.ac.jp/~hccsr/>）、および一般社団法人社会調査協会ホームページ（<http://jasr.or.jp/>）を参照してください。

国際社会学へのロードマップ

1 国際社会学とは何か？ ボーダーをめぐる多様な現象への着目

社会学は、近代に出現した「社会」というものを多角的な視点で分析してきました。同時にいつしか「社会」を対象として設定する際に、それが一定の輪郭をもつものと前提にしてきました。例えば、長く日本の社会学の課題は、日本の内部における不平等、そこで発生する集団の対立、その中で農村から大都市への移動、メディアの影響、といったものでした。しかし、国境を越えて動く人々の増大、国家が規制しきれない情報の移動、国境をたやすくすり抜けていく環境汚染とそれへの対応をもとめる社会運動等は、社会学の視野の広がりや、国民や国家といった単位を超えたものにすることを求めています。国際社会学は、一方で社会学の発展させてきたさまざまな分析の発想や道具を受け継ぎながら、他方でそれをこれまでの国民社会の枠組みをすり抜けていく現象に焦点をあわせていく学問です。

国際社会学は、発展途上の若い学問です。従って、こうでなければならないという決まった学び方や取り組み方などは必ずしもありません。しかし、新しく可能性がある分だけ、形がはっきりせず、それへの入り方は、未知の領域に入るときにありがちなように皆さんを戸惑わせるものかもしれません。そのリスクを減らし、少しでも効率的に学んでいくための学びの地図を提供できればと思います。



国境での家族の再会の儀式： オバマ政権時代でもすでに多くの非正規移民たちがメキシコ国境の南に送還されトランプ政権は規制をさらに強めつつある。メキシコ国境のフェンスでは引き裂かれた家族が毎週集う。今後この数が拡大する場合、その両側の社会へのインパクトがどのようなものかは国際社会学の大きな課題だ。

2 国際社会学の視野と研究領域 越境とボーダーの多様性

国際社会学の対象となるボーダーを越える現象は、実に多様です。ですが、国際社会学は、そのすべてを対象とするわけではありません。国際社会学が主にターゲットにするのは、次のような現象です。

- 人間の移動とそれを規制する国家の境界
- 国際的な企業・産業の移動・展開とローカル社会の変動
- 国際移動に刺激された民族や人種にかかわる問題の変化
- 国境をこえる企業やNGOなどの様々な組織の活動とそれに刺激された社会の反応
- 国境をこえる情報の流れの構造とその影響
- EU、NAFTAなどの超国家統合とそれへの社会の反能
- グローバルな難民危機への各地域での対応の構造

しかし、国境を越えるプロセスは、これらに限りません。例えば、商品や資本の動きそれ自体や、その経済的なコストや利益は、国際経済学が主に担当するでしょうし、国家間の交渉や対立それ自体は、国際政治学がこれを担当してきました。これらの分野は、むしろ確立した専門性を早くから持ってきていたのです。国際社会学は、これらの専門性をはみ出した、新しい活動の展開に対応してきたのです。ただし、経済が作り出す国際的な構造や、国家が打ち出す政策は、当然国境を越えた社会的なプロセスに影響を与えます。そのため、これらの分野で起こることの理解は、越境的な社会へのインパクトの理解の前提になります。その意味で、このような国際経済、国際政治、国際関係論及びこれらを含んだグローバルスタディーズと呼ばれる分野の基本的な発想、アプローチ、などを理解していくことも大切でしょう。



市民の支援による技能実習生の日本語学習（九州北部）

最近改定された入管法の議論の中で、大きな問題を指摘された技能実習生制度だが、改正による滞在の長期化への道に対応した日本語学習のチャンスは限られている。佐賀県の市民たちが学習意欲のある実習生に手弁当で日本語学習と生活面のサポートをしている。

北関東にある日系ブラジル人学校を訪問する
国際社会学ゼミナールの学部生・大学院生
日本の中にある外国人集住地帯をめぐることで、身近なところにある意外な社会のグローバル化とその問題が見えてくる。



3 国際社会学を学ぶためのステップ

こういった広がりに関連をもった国際社会学の学習のためには、次のようなことが必要な手順といえるでしょう。

1) 語学への取り組み

特に 1、2 年生に望みたいのは、外国語の持続的な勉強です。高い英語力は、この分野では少なくとも必須と考えてください。読解はもとより、listening comprehension, speaking もできるだけ向上に心がけましょう。関心のある分野によって、当然第 2 外国語の修得も必要です。また、必修の英語コミュニケーションスキル科目で基礎力を高めた上で社会学部独自科目である「Topics in Social Sciences」や「Topics in Global Studies」を積極的に履修し、実践的でアカデミックな英語力を高める努力を継続して下さい。国際社会学のゼミナールでは基礎的な語学力を維持していることを前提にしています。専門書を読むに足る基本的な英語の読解力すら欠けているのでは、この分野で伸びていくことは望み薄です。

2) 社会学の基礎を身に付ける

先にあげた国際社会学の多様な対象の分析には、社会学が蓄積してきた様々な道具が大変重要な役割を果たします。このためには、まず「社会学概論」・「社会科学概論Ⅰ・Ⅱ」でその全体の編成を知り、また「社会学理論」でその発展の歴史や様々な理論の系譜を知ることが重要です。さらに、国際社会学の特定の対象にアプローチしていくには、関連する他の専門分野が発展させてきた視点が役立ちます。例えば、国境を越えて移住する人々を理解するには、都市社会学の都市への移動研究や家族社会学の提供する家族の変化についての理解が参考となるでしょう。

3) 国際社会学の広がりを知り、発想を学ぶ

国際社会学の多様な分野の概観は、「国際社会学Ⅰ・Ⅱ」を通じてなるべく 2 年次に行ってください。そして、3 年次以降は個別分野を「国際政治社会学」「国際社会と文化」「国際社会の課題」などで学習してください。

4) 関連領域とリンクする

国際社会学と隣接する国際的視点での諸分野を社会学部に限らず学習するとともに、異文化間の関係を扱う人類学などの学問、そして特定地域での民族や文化の関係を扱う授業にも積極的に出ること、道具箱を豊かにするとともに比較の視点を充実させていくことが必要でしょう。また、法学部の国際政治理論や国際政治経済なども、マクロの国際的なフレームワークを理解して、国際社会学的な対象のバックグラウンドを知るのに有効でしょう。

5) 留学に挑戦する・異文化の中で活動する

国際社会学は、国際政治学や国際関係論に比較して、社会的な現象の発生する現場での観察や聞き取りを重視します。そのためには、早く海外での直接の体験を持つことはもちろん望ましいでしょう。特に、大学時代に留学を通じて、たとえ大学という限られた社会的な場でも、直接他の社会の人々と交流をすることは重要なことです。また、海外に行かなくても、国内での異文化に接することも貴重な体験です。国際社会学を専攻する学生には、大いに一橋大学の交換留学制度やほかの留学チャンスを利用して、海外で社会学的な想像力を発展させてもらうことを期待していますし、ゼミの担当教員はそのようなチャンスのためのサポートを積極的にしていきます。また、できるだけ国内での異文化に触れる機会も設けていくことを心がけます。学生自身も、積極的にキャンパスにいる留学生との交流を通じて、日常的な感覚を磨くと同時に、学外でも外国人をサポートし、また交流する機会を増やしてほしいと思います。

4 具体的な学年別の履修プラン（**太枠**の中が国際社会学の科目）

学年	社会学部の科目			他学部 の 関連科目
	社会科学全般の前提 科目や関連科目	社会学領域の科目		
		社会学領域の科目	国際社会学科目	
1 年	社会科学概論Ⅰ・Ⅱ	社会学概論	社会研究入門ゼミナール (国際社会学担当教員)	現代国際社会と政治 (法)
2 年	地球社会の課題 社会人類学総論 アメリカ社会史総論	社会学理論 社会調査論 社会学史	国際社会学Ⅰ・Ⅱ 社会研究入門ゼミナール (国際社会学担当教員)	国際政治理論 (法) 国際安全保障、国際 政治経済 (法)
3 年	産業・労働社会学特論 国際開発論 アメリカ社会史特論	社会の構造と変動 地域・都市社会学 家族社会学 ジェンダー論	国際社会と文化 国際政治社会学 国際社会の課題 ゼミナール(国際社会学 担当教員)	国際政治経済研究(法)
4 年	同上	同上	同上 + 卒論	同上

5 最近の卒業論文のテーマ

国際協力における連携がもたらす可能性—NGOの視点から

非正規滞在外国人に対する管理と在留特別許可—「迎えられるべき外国人」とはだれなのか？

イタリア北部地域における出移民・入移民組織とシティズンシップ

「ゲスト」としての留学生—オーストラリアの事例—

6 参考文献

(社会学の中から発想を学ぶには)

コリンズ、R. 2013『脱常識の社会学 第二版』岩波書店。

町村敬志 他(編) 2019『社会学 新版』有斐閣。

(国際社会学領域)

梶田孝道(編) 2005『新・国際社会学』名古屋大学出版会。

宮島・梶田・小倉・加納(監修) 2002『講座 国際社会』(全7巻) 東京大学出版会。

小井土彰宏(編) 2017『移民受入の国際社会学』名古屋大学出版会。

森千香子 2016『排除と抵抗の郊外—フランス〈移民〉集住地域の形成と変容』東京大学出版会。

吉野耕作 1997『文化ナショナリズムの社会学』名古屋大学出版会。



中南米難民たちへのメキシコ国境都市での支援（2019年8月ティファナ市にて）

トランプ政権は中南米諸国の混乱・政治的抑圧によって北上した中南米諸国出身の難民たちの国境内での審査を拒否し、彼らはメキシコ国境で待機を余儀なくされている。教会やNPOは彼らへの支援機能を果たすが、状況は好転していない。

社会学部でのジェンダー研究の横断的学習

ジェンダーとは、社会環境に起因する性差や社会的規範としての性役割を意味する概念であり、ジェンダー研究は 20 世紀後半に登場した若い研究領域です。

近代の学問では「人間」の基準として、欧米の中産階級の白人で健康な男性が暗黙のうちに想定されてきました。この想定に異議申し立てをし、知の担い手の偏りに抵抗する形で興隆したのが、ポストコロニアル研究、ブラック・スタディーズ、女性学、アジア発のアジア学、当事者による障害研究などでした。女性学、そしてその後に登場した男性学、セクシュアリティ研究などに刺激を受けながら発展してきたジェンダー研究は、性別が他のさまざまな差異（人種・民族・階級・年齢・障害の有無など）と切り結びつつ、人間存在に多様性をもたらしめていることに注意深くあろうとする研究領域です。

ジェンダー研究は、女性だけに焦点化する学問ではありませんし、家族のような性差や性役割の存在がわかりやすく見える領域だけを扱うわけではありません。学際領域としてのジェンダー研究の特徴は、研究対象そのものよりもむしろそのアプローチにあると言えるでしょう。

ジェンダー研究は、これまでの学問が性別中立的に記述してきたさまざまな事象を可視化していくという課題を負っています。一見、性別とは無関係に見える「市民」や「国民」や「労働者」の経験の中に「差異」を見出していくことで、従来の学問の中にあったバイアスを明らかにすることが目指されるわけです。

他方で、ジェンダー研究は、そのようにして見出された「差異」を相対化するという課題をも担っています。文化人類学や歴史学の研究成果を用いて、性差に関する知識を文化的に比較したり、その知識が組み立てられてきた歴史の変遷を追ったりすることで、「差異」にまつわる知識を脱自然化して考察するのです。

なお、ジェンダー社会科学研究センター（CGraSS）では、ジェンダー教育のプログラムを策定・提供しています。研究分野を超え、学部を超え、領域横断的にジェンダー研究を学ぶための指針となる履修ガイドをぜひ活用してみてください。

CGraSS ホームページ

<http://gender.soc.hit-u.ac.jp/genep.html>

（右）アメリカ女性兵士記念展示物——
軍事にも浸透する女性の役割は、ジェンダー研究の新しい研究領域でもある。



・ 社会文化研究分野 ・

「社会文化研究分野」は、哲学、倫理学、社会思想史、文芸、言語といったさまざまな側面から社会における知的および文化的活動を多面的に考察することを目的にしたユニットです。抽象度の高い理論から、より具体的・実践的な知の体系、さらには芸術活動も対象に含まれ、アプローチの方法も、哲学的あるいは歴史的アプローチ、文芸学や言語・文化理論からのアプローチと多様です。





社会文化研究分野案内

1 社会文化研究分野はどんな学問分野を含むグループか？

社会文化研究分野は、人間の精神活動にかかわるさまざまな文化事象を中心的な研究テーマとするスタッフによって運営されています。各スタッフの専門領域は、哲学・思想史・倫理学・言語文化・言語芸術など、広い分野をカバーするものです。これらの専門領域は、学問的な伝統も異なりますし、研究の中心となる視点もさまざまですが、いずれも、「ことば」を通して表現される、人間の多様な精神活動の豊かなドラマを読み解くための学問領域であると言ってよいでしょう。

社会文化研究分野のスタッフが担当する科目には、大きく分けてふたつのグループがあります。ひとつは哲学・思想と呼ばれるグループです。そこには、哲学や倫理学といった、自然および社会と人間との関わりに焦点を当てながら、人間の幅広い知的・精神的営みをその根源にまで遡って探求しようとする科目と、社会が抱える諸問題を対象とするさまざまな思想活動を、その背景となっている歴史的文脈との関係をとくに重視しながら解き明かそうとする思想史と呼ばれる科目とが含まれます。

もうひとつのグループは、人間の豊かな想像力が生み出した多彩な言語芸術や言語文化、民族文化を対象とする科目です。ここには、こうした言語活動の基盤となっている地域や民族ごとのきわめて多様な言語の構造や機能に取り組む科目も含まれています。また、各スタッフは、それぞれの学問を追究するうえでとくに深くかかわる特定の地域・言語圏をもっています。現在、このグループを構成している5名のスタッフは、おのおのイギリスを中心とした英語圏、フランス、ドイツ、ロシア、台湾を含む中国語圏の専門です。

社会文化研究分野のスタッフは、このように、それぞれが異なる学問的基盤に立ちながらも、関心を共有し、互いに刺激を与えあいながら研究・教育活動を行うよう努力しています。研究分野の多くのメンバーが語学関連授業をはじめとする全学共通教育や、学部1年生から履修可能な科目に積極的にかかわり、学生の皆さんと1年次から接し、交流する機会を多くもっています。皆さんにはそうした機会を通じて社会文化研究という分野の教員の関心やテーマに触れ、わたしたちの研究に関心を向けて欲しいと期待しています。



沖縄県宮古島、城辺（ぐすくべ）集落での方言使用に関するインタビュー調査

一方、学部における教育、とりわけゼミナールにおいては、より専門的な研究教育を進めるための基礎として、原典にじっくりと取り組む姿勢を重視しています。ゼミ以外にも大学院との共修科目である3種類の「原典講読」授業があり、少人数で語学力の向上とテキストの深い理解を目指した精読を行っています。そこでは教員だけでなく、ときには大学院生とも身近に接しながら、テキストを精緻に読むという訓練を通じて自分の関心を深めることが期待されています。もちろん、多くの学生が履修する形式の学部専門講義も開講されており、わたしたちの研究成果を皆さんの知的関心に結びつける努力がされています。

2 社会文化研究分野のスタッフが担当する科目

社会文化研究分野で開講されている科目は次の通りです。

- I 学部導入科目：哲学概論
- II 学部基礎科目：社会哲学、社会思想、社会と文化、ことばと社会
- III 学部発展科目：社会倫理学、社会思想史、言語社会学
- IV 学部・大学院共修科目：哲学特論、倫理学特論、社会哲学原典講読、社会思想史原典講読、言語社会学特論、社会文化論原典講読

これらの他にも、本研究分野のスタッフが担当している科目があります。それらの科目は他の研究分野や共通科目などの枠組みの中で開講されているものですが、いずれも、各スタッフの専門分野が基盤となっているものです。それらについては、次頁の履修モデルを参考にしてください。

履修のモデルについては、先に述べたふたつのグループごとに例を示してみます。哲学・思想史・倫理学などに特に関心がある場合は、社会文化Aグループ（哲学・思想史・倫理学）、文学・文芸思想・言語文化論に関心がある場合は、社会文化Bグループ（言語文化・言語芸術）を参考にしてください。



社会文化A（哲学・思想史・倫理学）

哲学・思想史・倫理学

（ ）内は適宜選択

	学部基礎科目	学部発展科目	学部導入科目	共通教育科目
1 年次			(社会研究入門ゼミナール)	(ラテン・ギリシャ語等)
			哲学概論	古典講読入門 (哲学・思想)
				言語学
				西洋思想
				現代思想
				(教養ゼミナール)
2 年次	社会哲学		(社会研究入門ゼミナール)	論理学
	社会倫理学			(教養ゼミナール)
	社会思想			
	社会と文化			
	社会心理学Ⅱ			
3 年次	ことばと社会	倫理学特論		
	宗教社会学Ⅰ	社会思想史		
	社会人類学総論	哲学特論		
	政治学	社会哲学原典講読		
	教育の歴史	コミュニケーション論		
4 年次	自然地理学	社会文化論原典講読		
	ヨーロッパ社会史総論	社会思想史原典講読		
	アジア社会史総論	哲学特論		
	日本社会史総論			



社会文化B（言語文化・言語芸術）

言語文化・言語芸術

（ ）内は適宜選択

	学部基礎科目	学部発展科目	学部導入科目	共通教育科目
1 年次			(社会研究入門ゼミナール)	(スペイン・朝鮮・アラビア語等)
				映像文化論
				宗教と文化
				音楽論・舞台芸術論
				(教養ゼミナール)
2 年次	社会と文化		(社会研究入門ゼミナール)	(世界の言語入門)
	ことばと社会			(教養ゼミナール)
	宗教社会学Ⅰ			(ラテン・ギリシャ語等)
	ヨーロッパ社会史総論			(各地域文化論)
	アジア社会史総論			古典講読入門(人間科学・総合)
3 年次	社会思想	社会言語学		
	アメリカ社会史総論	社会言語学特論		
	地球社会の課題	ヨーロッパ社会史特論		
		国際社会と文化		
		哲学特論		
		倫理学特論		
4 年次	社会哲学	社会文化論原典講読		
	教育の歴史	社会思想史原典講読		
		社会哲学原典講読		
		哲学特論		
		社会思想史 倫理学特論		



・ 人間行動研究分野 ・

「人間行動研究分野」という科目群は、社会心理学、社会人類学、社会地理学から構成され、人々が日常に繰り返すふるまい（実践）とその所産を、その社会的・文化的・地理的な文脈に照らしながら探求していくユニットです。調査、実験、フィールドワーク、表象分析などの方法に基づきながら、さまざまな条件の下での人々の実践の諸様式とそれらの成立・維持・変容、さらにはその社会的・文化的帰結を明らかにしようとする経験的研究とともに、そうした探求の営みを支える理論的・方法論的研究を学びます。



(左) チャドのクラブの宣伝



(右) ベルリンのグラフィティ

● 社会心理学 履修モデル

人間は日常生活の中で互いに影響しあいながら生きています。そのような人と人との相互作用のあり方を研究するのが社会心理学です。一橋大学では「社会心理学Ⅰ(社会的分野)」「社会心理学Ⅱ(心理的分野)」「マスコミュニケーション基礎論」の3つを社会心理学関連の基礎科目としておいています。

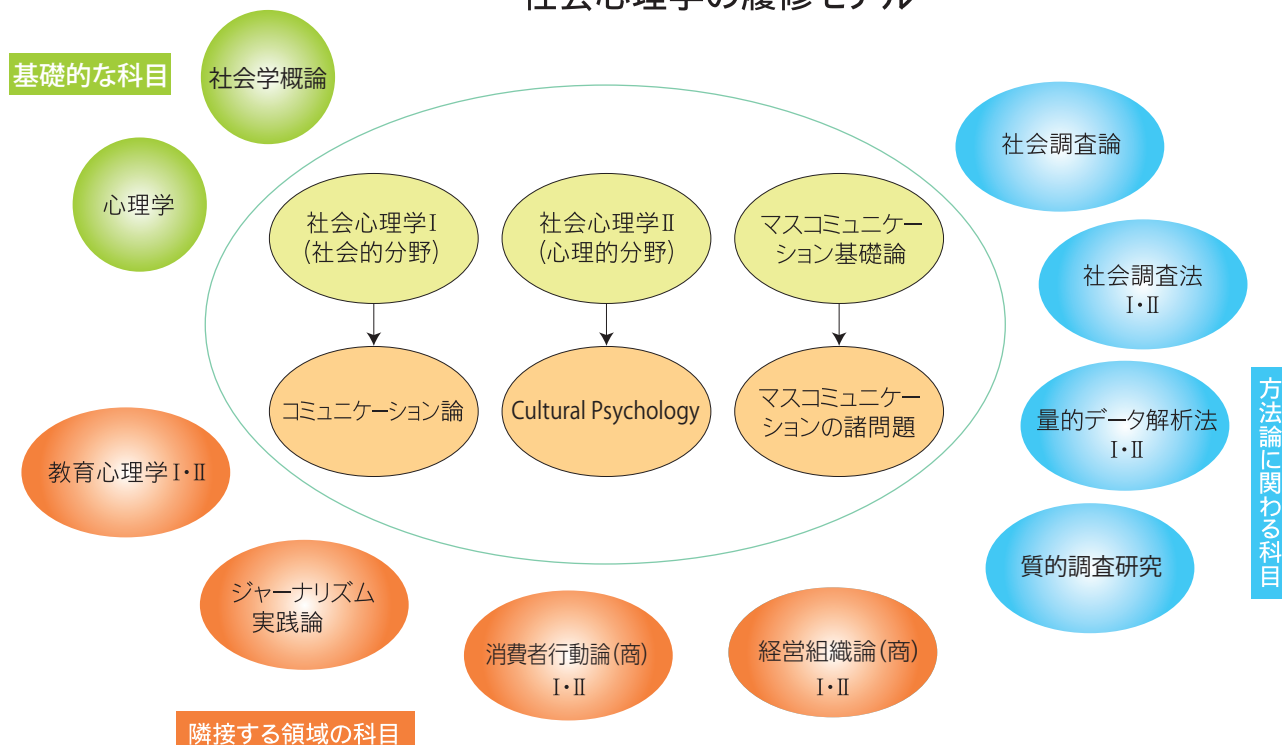
「社会心理学Ⅰ」では、私たちが日々の生活のなかで他の人々と様々な関係のもとに様々な形で営んでいるやりとり——日常生活実践——の実際とその帰結に焦点を合わせます。「社会心理学Ⅱ」は主として個人の心理的過程に注目し、他者からあるいは人が生み出している社会的状況から受ける影響について検討をしていきます。「マスコミュニケーション基礎論」では私たちの日常生活にとって欠かせないものとなっているマスメディアについてその仕組みや影響を探っていきます。

これらの内容をより深く学んでいくために、「社会心理学Ⅰ」には「コミュニケーション論」,「社会心理学Ⅱ」には「Cultural Psychology」,「マスコミュニケーション基礎論」には「マスコミュニケーションの諸問題」が発展科目として用意されています。

下記の履修モデルでは、社会心理学の隣接分野の科目および社会心理学の研究を進めていく上で必要となる方法論を身につけるための科目をあげてあります。

さらに、社会心理学分野の教員が担当する「教養ゼミ」「社会研究入門ゼミ」「演習」を履修することで社会心理学の専門的知識をより深めていって下さい。

社会心理学の履修モデル



● 社会人類学 履修モデル

人類学を特色づけるのは、具体の研究対象への強いこだわりです。人類学はどんな対象でも理論でも受け入れます。たとえば、対象は人間でなくモノ、現在でなく過去にまつわる事象でも結構ですし、理論が社会学や哲学や科学技術論にかぎりなく近くても問題ありません。寛容を旨とする人類学が絶対に拒むこと——それは対象の細部や周辺や背景へのこだわりを捨て去る事です。人類学では他の科学のように、事例が理論を立証する道具になるのではなく、むしろ理論が事例を演出します。分析者が高みから事例の真相をあばくのではなく、事例と水平に並んで、事例にシンクロナイズするように思考を展開します。人類学がフィールドワークを重視するのもそのためです。

こんな特色に何か意義があるのでしょうか？ 人類学は決してオタクの学問ではありません。この学問はどんな民主主義よりもラディカルに既成の序列を疑い、序列化からの脱却に現実を批判し再構築する可能性を賭けています。事例と理論をめぐる人類学の姿勢は、そうした既成の序列に対する何重もの挑戦の表明です。分析対象と分析者、事例と法則、人間と非人間、細部と全体、問題と解決といった二項の間の序列が、ここには含まれています。だから人類学の実践では、分析者が対象によって自分を分析したり、人間が非人間の同類として人間になり直したり、全体が細部によって別の相貌をあらわしたり、問題が矮小な解決を圧倒してあたらしい地平を切り拓いたりすることが起きるのです。このようなラディカルな姿勢が一橋大学の社会人類学の特徴です。



(上) インドネシアの楽器
(右上) ナイロビ・リバーロード
(右下) ロンドンのカーニバル



(左) ベトナムのネットカフェ



(右) 社会人類学共同研究室

【社会人類学に関連する授業】

○学部導入科目「人類学概論」（全学部1～4年）：人類学の実践と理論の基礎を総合的に学ぶ

○学部基礎科目

「社会人類学総論」（全学部2・3・4年）：学説史を中心に、人類学の理論を学ぶ

○学部発展科目

「現代人類学特論」（全学部2・3・4年）：特定のテーマに焦点を当て、人類学的探求の方法を学ぶ

「エスノグラフィ」（全学部3・4年）：事例と理論が関ぎあう民族誌の読み方・書き方、そして面白さを学ぶ

「周辺状況の諸問題」（全学部3・4年と大学院生）：周辺化という概念の問題を含め、再検討する履修モデル

人類学を体系的に学ぶ	関連する領域から知的刺激を得る	
【学部導入科目】 人類学概論	【全学共通教育科目】 民俗学 民俗文化論 映像文化論 音楽論（東洋） 平和と文化	言語論 レトリック論 異文化交流論 東アジアポスト植民地論 地球社会研究
【学部基礎科目】 社会人類学総論	【学部基礎科目】 ジェンダーと社会	地球社会の課題 地域研究
【学部発展科目】 現代人類学特論 エスノグラフィ 周辺状況の諸問題	【学部発展科目】 言語社会学 宗教社会学	

履修上のアドバイス

学部導入科目「人類学概論」は一年次履修が望ましい。「社会人類学総論」、「現代人類学」、「エスノグラフィ」、「周辺状況の諸問題」はそれぞれ異なる開講年次には異なる講師が担当するので、同科目名の講義を繰り返し履修してもその都度異なる内容の講義を受けることができ、問題の多様な広がりや深さを学ぶことができるようになっている。また上記のような人類学と関連する諸領域から様々な知的刺激を得ることで、問いをさらに鍛えることを勧める。

●社会地理学 履修モデル

基本的な特徴

本学の社会地理学は、地域研究、開発研究、人間－環境研究を重視しています。多少具体的に表現すれば、発展途上国の政治・経済・社会、貧困・資源・環境、一次産品のバリューチェーン、国際開発・協力の制度や主体（ODA実施機関、企業のCSR、市民社会組織…）の振る舞いなどが、主なテーマです。こうした研究は、ヒト・モノ・カネ・情報のグローバルな流れによって結びついている先進国や新興国の側から行うこともできますし、途上国の場を用いて先進国由来の「社会」理論を相対化することに関心をもって取り組むことも可能です。

これに加えて、日本ほかの各地域についての人文・社会地理学的な研究も守備範囲にあります。個人・企業等の立地・分布、移動・近接性、場所イメージなど、人々の行為や認知の空間的側面の研究や、「空間」が「社会」とどのように相互作用して「社会問題」を生み出すのかを理解する社会地理学的な研究を行うことができます。

社会地理分野の科目のリストと履修モデル

・学部基礎科目：

「地球社会の課題 A・B」、「地域研究 A・B」

2年次以降に履修できる。

・学部発展科目：

「国際開発論 A・B」、「社会開発論 A・B」

大学院との共修授業であり、やや高度な内容を扱う。3年または4年次に履修できる。



タンザニア北東部、アルーシャ市。農業博覧会での普及活動（上田撮影）



ケニア中央部の農村。森林保護区から薪炭材を運び出す女性たち（上田撮影）

基礎科目のうち、「地球社会の課題 A・B」は、南北問題や世界の諸地域が抱える問題についての基礎的知識や見方をグローバルな視点から学べる。同じく基礎科目の「地域研究 A・B」はアジア・アフリカの特定地域に焦点を当て政治や経済、環境、開発などについて講義する。

発展科目として、「国際開発論 A・B」と「社会開発論 A・B」がある。「国際開発論」は、各種の開発論や理論の説明、開発や国際協力についての具体的事例の考察を行う。「社会開発論」は、社会開発についての各種理論や発展途上国の社会についての講義である。

社会地理分野以外でも、社会史、国際社会学などの分野に関連する科目が開講されている。また他学部では、法学部の国際法部門や経済学部の一部の科目に、社会地理の授業と関連の深い科目がある。

以上に加えて、全学共通教育科目「自然地理学」があり、自然地理学を専門とする非常勤の先生にお願いしている。自然地理学の基礎的知識や方法が学べ、地球環境についての知見を深めることもできる。地理の教員免許を取得したい人には必須である。



日本のバナナ市場の8～9割はフィリピン産が占める。近年は甘味の強い高地栽培品種が人気（ダバオ，赤嶺撮影）



東マレーシア、サバ州のコタキナバル市場に揚がったキハダマグロ（赤嶺撮影）

・ 人間・社会形成研究分野 ・

「人間・社会形成研究分野」という科目群は、教育社会学、スポーツ社会学、政治学から構成され、人間の発達と社会の形成に対して総合的な認識を持つとともに、そこで生じてくる諸問題に有効な解決策を構想することをめざすユニットです。



(左) サポーターたちはなぜスタジアムに集うのか。(アルゼンチン)

相手への野次も味方内の連帯感に変わる。そこには余暇としてだけではなく、社交性と集合精神の表現としてのスポーツをみることができる。

(右) カザフスタンの入学式

教育社会学部門では、教育の現場を重視しています。日本と欧米ばかりでなく、世界各地の教育現場を調査し、多文化教育などの創造的な教育実践にフォーカスを当てています。



● 教育社会学

1. 教育社会学とはどういう学問か

一橋大学で学ぶ教育社会学とは、社会科学の歴史の中で登場してきた教育社会学を継承するものですが、世にいう「教育社会学」を示すものではありません。通常のエ育社会学を含みつつそれに限定されない、教育諸学の共同によって教育と社会との関連を問うていく広義の＜教育と社会＞学をめざしています。

一橋大学で学ぶ＜教育と社会＞学とは、歴史的現実のただなかを生きる力の形成という教育や人間形成という営み自体が社会的に規定されているという事実を看過し、社会から切り離して研究するものではありません。子ども・青年の発達問題のみならず、成人の生き方の問い直しをも射程に入れ、労働・生活のあり方と結びつけたかたちで考えようというものです。

それは、社会変動のもとで教育と社会の関係の調整をはかる営みをどう解き明かすかという課題に取り組むことでもあります。やや難しくいえば、教育のあるべき姿から像を描こうとする目的規定と、教育の生きられた現実から像を描こうとする社会的規定の相克をどう解くか、ということだといえるでしょう。

2. 科目の学問リスト

ですから＜教育と社会＞学を、狭い意味での教育の「あるべき」姿を追求する学問として考える必要はありません。「あるべき」姿の追求ももちろん可能ですし、狭い意味での教育社会学も含まれているわけですが、教育と社会のつなぎを考えるさまざまな視点が用意されています。

教育と社会の過去と未来の連関を考える思想的な研究、教育と社会のグローバルでエコロジカルな連関を追求する比較研究、人々によって生きられる過程に即した事実解明をめざす社会史的研究、教育の営みを社会的関係・構造の中でとらえなおそうとする社会学的研究、国家との関係で改革のダイナミズムをとらえようとする政策研究などがあります。

3. 履修モデル

これらの学問リストを図示すると、次頁のようになります。



(左) 旧ソ連圏 アルメニア共和国のディアスポラの学校

一橋の教育社会学では、量的、質的な調査によって教育問題の分析と問題解決に資する研究を目指しています。歴史的アプローチを重視し、比較の手法も用います。写真は世界各地のマイノリティの教育現場の調査の一例です。

教育社会学 履修モデル図

1 年～ 導入科目

教育と社会

2 年～ 基礎科目

教育の社会学

教育の歴史

3 年～ 発展科目

教育社会学特論

教育研究法

教育政策

比較・国際教育学

(右) モスクワのサマースクール

多文化共生のための教育は旧東側でも実践されている。



● スポーツ社会学

1. 一橋大学におけるスポーツ社会学

イギリスを中心として成立したスポーツは、同じルールの下に、国境や民族を超えて誰もが勝敗を競え合えるユニバーサルな文化として、20世紀を通して地球的規模で普及し、発展を遂げました。そして現在、世界最大級のメガイベントとして人々を熱狂させているオリンピックやサッカー・ワールドカップに示されているように、スポーツは経済、政治、文化、メディア、教育等との結びつきをますます深めています。また、近代社会がもたらした運動不足やストレスの増大、あるいは自己実現や人間らしい生き方の追求などを背景にして、人々のスポーツをする・観る・読む・聞く等の要求もかつてなく高まりつつあります。

こうしてスポーツは、現代社会を読み解くひとつの重要な領域として、また、持続可能な人間と社会経済開発を促し、さらに恒久平和の構築のためのアイテムとしても脚光を浴びるようになってきました。そして、それらを総合的にとらえるスポーツの社会科学研究が切望されるようになってきています。

一橋大学におけるスポーツ社会学は、こうしたニーズに応えるべく設置された、全国的にも他に類をみないユニークな研究ユニットなのです。スポーツ社会学という名称を使っていますが、世にいうスポーツ社会学 = Sociology of Sport ではありません。「スポーツと社会の関連を問う」を基本理念としつつ、その内容は、社会学はもとより歴史学、教育学、文化研究、政策研究、開発研究、地域研究、福祉研究などを含み込んだスポーツの社会科学 = Social Sciences of Sport を意味しています。また、対象とする地域を広く世界に求め、「スポーツとグローバリゼーション」研究にもいち早く取り組んできました。

2. 履修モデル

スポーツ社会学関係の授業は、大別すると以下の3種類に分かれます。

- ①全学共通教育科目（講義・教養演習）
- ②学部専門科目（基礎科目・発展科目）
- ③ゼミナール

これらのうち、①の全学共通教育科目は、1年次から履修でき、計7つの講義と教養ゼミナールが開講されます。

②の学部専門科目のうち、2年次から履修できる学部基礎科目は「スポーツ社会学の基礎」だけです。



（左）アイルランド人の魂（民族意識）が投影されているともいわれるゲーリックゲームスのひとつ「ハーリング」。

オリンピック種目ではないし、これからもならないであろうこの競技に人々は熱狂する。グローバルな時代のローカルなスポーツは何を意味するのだろうか。

この授業は、4名の教員がオムニバス形式で行い、担当教員がそれぞれ、社会政策／開発学、社会学、歴史学などの理論やモデル、分析視角、手法などを用いて、スポーツとそれにまつわる社会現象を読み解いていきます。この授業でスポーツ社会学の大まかなイメージがつかめると思います。

3年次から履修できる学部発展科目としては、計4つの講義があり、さまざまなテーマについてのより深い追究がなされます。

③のゼミナールでは、個人やグループでテーマを設定して本格的に研究を深めるとともに、卒業論文を仕上げていきます。スポーツを社会科学の対象として認識し、分析していくには、スポーツ社会学関係の授業だけでなく、そのために必要な隣接分野、たとえば歴史学、社会思想、政治学、教育社会学、人類学、社会調査、地域研究、都市論等々に関する知識や思考方法を身につけることが必要です。社会学部の恵まれた学問環境をフル活用しながら、研究を進めていってほしいと思います。

	関連科目	開講科目	
	全学共通教育	学部基礎科目	学部発展科目
1年	現代社会とスポーツA・B・C スポーツと文化A・B		
2年	地域社会とスポーツA・B ヒューマンセクソロジー	スポーツ社会学の基礎	
3年	スポーツと映像文化 健康と福祉		スポーツの歴史 スポーツ文化論
4年	スポーツトレーニング論 運動と体力の力学		スポーツと開発 スポーツ政策論

● 政治学

1. 社会学部の中の『政治学』

一橋大学は、政治学が社会学部のなかに置かれている大変珍しい大学です。他大学では政治学に含まれる国際関係論や行政学は、法学部で開講されています。これは、戦前「キャプテン・オブ・インダストリー」を輩出した東京商科大学が、戦後に一橋大学と名を変え「社会科学の総合大学」として再発足するにあたって、商学部・経済学部とともにいったん法学・社会学部がつくられ、そこから法学部と社会学部が分離した、という一橋大学の沿革と関連しています。

日本の政治学は、戦前ドイツの大学システムと国法学・国家学の影響を強く受けて、法学部の憲法・行政法から分かれて片隅におかれ、天皇制国家の官僚養成のための学問として、生まれ育ちました。戦後の日本国憲法のもとで、丸山真男らにより「科学としての政治学」が提唱され、再建された後も、国立大学を中心に政治学を法学部の一部とする伝統が残りました。

ところが、もともと「官学」でありながら「民間」に多くの人材を送り出してきた一橋大学では、政治を「官」ではなく「民」の視点で学んでいくため、国際関係論や行政学は法学部に置きながら、政治学を社会学・哲学・歴史学・社会政策論などとともに、「社会科学の総合学部」としての社会学部で教育することにしました。ですから一橋大学の政治学は、政治家や官僚を養成するための「国家学としての政治学」ではなく、主権者である市民に不可欠な総合的教養を身につけるための「市民社会の政治学」を志向し、政治現象を社会・

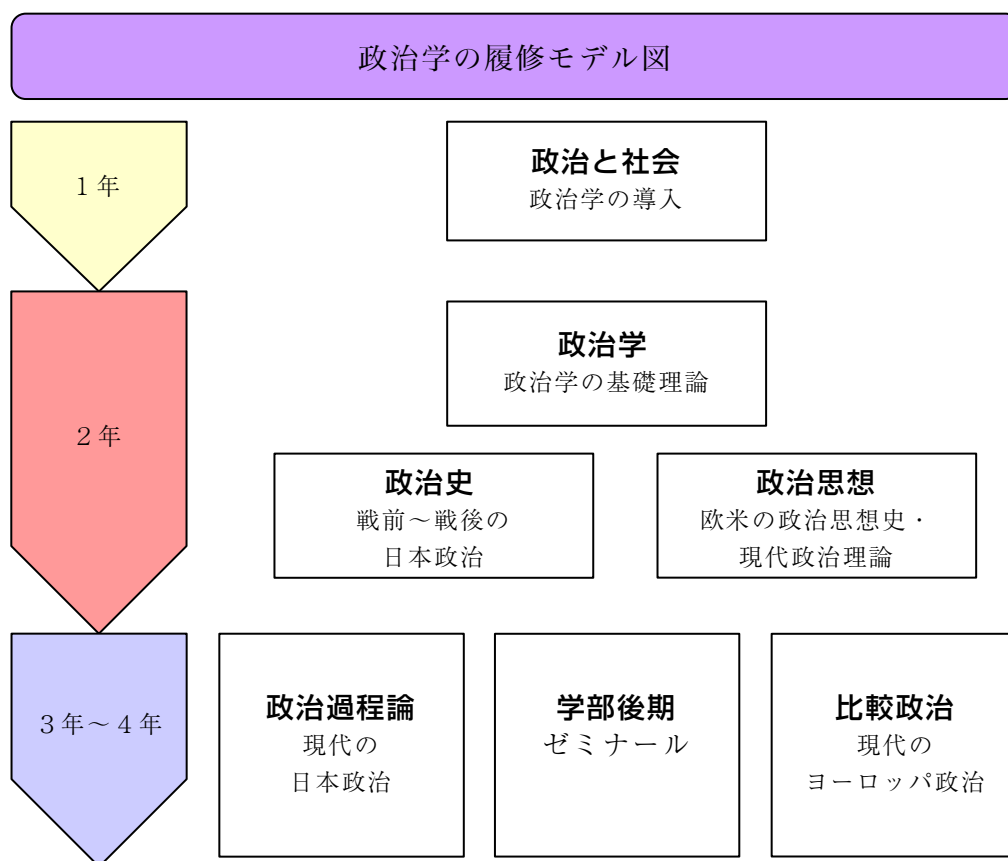
歴史・文化の中で広く位置づける市民に開かれた学問をめざしています。現在、教育社会学およびスポーツ社会学と一緒に人間・社会形成研究分野を構成しているのも、そうした理念に基づいています。

2. 履修モデル

政治学を学びたい人は、まずは共通教育科目の「政治と社会」を履修しましょう。あわせて外国語や他の社会科学も広く学びましょう。グローバル化の進む現代では、政治現象は経済・社会・文化など、さまざまな領域の問題と深くかかわりあっています。どの分野からも、政治を掘り下げて考えるためのヒントが得られるでしょう。社会学部の導入科目である「社会科学概論Ⅰ・Ⅱ」「社会研究の世界」「社会研究入門ゼミナール」は、社会科学的なものの考え方、データの扱い方を学ぶうえで有益です。

2年生になると、学部基礎科目で「政治学」「政治史」「政治思想」を履修することができます。「政治学」では基礎的な理論と、それらを使って今日の政治を分析するための方法を学びます。「政治史」では戦前から戦後にかけての日本政治を、「政治思想」では主にヨーロッパで発展してきた思想を学びます。これらの科目によって、実証・歴史・思想という三つの基礎的なアプローチを身につけることができるでしょう。

3年生からは発展科目で「政治過程論」「比較政治」が履修できます。「政治過程論」は現代日本を、「比較政治」は現代ヨーロッパを、それぞれ専門的に考察します。さらに3年生から4年生にかけて、学習の軸となるのは、政治学担当教員の開講する「学部後期ゼミナール」です。ナショナリズム、戦争と平和、政党デモクラシー、メディアと政治、格差社会、グローバル化など、政治にかかわるさまざまな問題について、担当教員や他の学生と議論をつみ重ね、最先端の学問を吸収しながら、学士論文を仕上げていくことになります。それぞれの選んだテーマに即して、社会学部の社会学・総合政策・社会史・哲学などの関係する講義、法学部の国際関係論、経済学部の経済学・統計学など他学部の講義も広く学んでください。



・ 総合政策研究分野 ・

「総合政策研究分野」という研究分野は、「雇用・労働」、「生活問題」、「コミュニティ」を研究対象として設定し、これらの世界において、労働者・市民が幸福な生を送ることを可能にする政策を築き上げるための知識と方法論を学びます。

従来、この分野の学問は近代日本が工業化を進め、農村から都市に労働力と人口の大規模で急激な移動が起こり、農村などの共同体の解体が進み、人々の暮らし方が大きく変わった20世紀の社会現実を背景に形成されてきました。

わが国経済の急成長の一方で、都市に集積した労働者家族の生活保障を伝統的な共同体が担うことは困難となりました。そこで国家による失業保険、医療保険、老齢年金などの制度・政策や企業経営による共同生活体形成（正規従業員の長期安定雇用や企業内福祉施策などいわゆる日本的経営など）、あるいは労働者の雇用保障と労働条件の維持向上を目指す労働組合の運動などが労働者家族の生活保障を担おうとしました。

こうした社会状況の中で提出されてきた政策課題に対応するために、社会政策、社会保障、労働問題、労使関係論、人口問題などの学問分野が発展しました。



自治体首長訪問（神奈川県開成町）



再生された古民家の視察

1. 総合政策研究分野の課題

現在、20 世紀的な日本社会の問題状況は大きく変わりつつあります。例えば、以下のような問題状況を挙げることができるでしょう。

- 少子高齢化など人口構造が変化し、わが国が人口減少社会に向かいつつあることも明らかになってきました。社会保険や年金をはじめとする社会保障制度はこのままで続けられるのでしょうか。
- 経済のグローバル化の影響が社会のすみずみにまでおよび、企業経営は経営環境変化への対応に迫られています。労働者の職場生活や労働条件、そして職業人生はどうなるのでしょうか。
- わが国に限らず、20 世紀末に福祉国家の行き詰まりが指摘されています。「福祉国家から福祉社会へ」という方向で制度・政策の再構築することを主張する声もあります。21 世紀に私たちは福祉社会への新たな展開を切り開けるのでしょうか。
- 政府・地方公共団体を中心とする「行政セクター」と企業を中心とする「民間営利セクター」と並んで「市民社会セクター」（民間非営利セクター）の役割の重要性が増してきていると言われています。この 3 番目のセクターには地域のコミュニティ組織もあれば、労働組合や生活協同組合も含まれますが、近年、NPO・NGO などの市民活動団体が発展してきました。ただし、市民社会セクターはまだ十分に力を発揮していない面もあります。これら市民社会組織はどのように活用すべきなのでしょうか。

2. 総合政策研究分野の 3 つの領域と履修プランの定め方

こうした重要な課題に向かって学生の皆さんが考察を深めるのを支援するために、この研究分野では＜社会政策・社会福祉＞＜雇用・労働＞＜コミュニティ・都市地域政策＞という 3 つの領域ごとに授業科目を用意しています。いずれかの領域を系統的に学習し、3 年次からの専門ゼミナールの選択や卒業論文の研究テーマ設定につなげる、という姿勢で科目選択をしてください。また、3 つの領域は深いところで密接に関係しているので、2 つ以上の領域を横断しながら自分の履修プランを組み立てることも必要です。そうした学習は現実社会を多様な異なる立場から観察し、社会問題の本質に迫る力を身につけるのに役立つことと思われます。

3. どのような科目があるか

総合政策研究分野の授業科目のラインナップを紹介します。詳しくは各科目のシラバスを参照してください。

＜社会政策・社会福祉＞領域

社会政策総論：総合政策分野の基礎領域を広い視野から展望する概説的科目です。（本年度は非開講）

生活保障論：個人や家庭生活の安定を共同的に配慮しようというのが、19 世紀末からの政策の方向です。この科目では、現在その政策がどのような位置と方向を持っているかを明らかにします。

社会福祉：社会福祉は社会政策、福祉政策の中心的位置を占めるようになっていきます。本科目は、このような動向を踏まえながら、社会福祉について概説することを目的としています。

社会政策特論：健康に関する政策学的な研究動向を踏まえて、健康に対する学術的なアプローチの可能性について多角的に論じます。

〈雇用・労働〉領域

雇用関係総論：総合政策分野の雇用・労働関連科目は、基礎科目である「雇用関係総論」と「産業・労働社会学総論」、発展科目である「雇用関係特論」と「産業・労働社会学特論」から編成されています。雇用関係総論では、現代社会の雇用関係の実態を日本国内の 이슈を中心に講義します。基礎科目ですので、初学者にとって興味を持てるカレントトピックスを多く取り上げる予定です。

産業・労働社会学総論：社会学を中心に、雇用関係を学術的に研究するための社会理論の講義を行います。（本年度は非開講）

雇用関係特論：産業・労働関連の調査に必要なリサーチメソッドの習得をめざします。

産業・労働社会学特論：現代社会の雇用関係について、労働力の国際移動、多国籍企業の動向など、グローバルな 이슈を取り上げて講義を行います（本年度は非開講）

〈コミュニティ・社会組織〉領域

人間環境論：生活空間の安全性、利便性、快適性を高め、人間的な生活環境を持続するための思想と政策と活動について考察します。地域社会と都市空間に関する社会学、経済学、都市工学、公衆衛生学などの基礎知識を学びます。また、心理学・工学の視点に基づき、「人間－環境」における認知の仕組み・計画手法を学びます。（本年度は非開講）

コミュニティ政策論：

現代社会が直面する社会問題解決に関するコミュニティ・レベルの政策と取り組みを研究します。地域住民の参加・協働、公益団体や市民社会組織の活動、コミュニティビジネスや社会起業などを学びます。（本年度は非開講）

都市・地域政策特論：まちづくり・環境・福祉などの各分野における市民組織の事例をもとに、市場・政府の有効性および限界と比較しながら、市民組織が必要とされる背景、市民組織の成立条件を考えます。

都市・地域政策総論：①環境が人間に及ぼす影響と、②人間が環境をデザインすることを同時に考えることが求められます。本講義では、心理学／工学の視点に基づき、「人間－環境」における認知の仕組み／計画手法を習得します。

4. 履修のガイド

これまでに紹介した総合政策研究分野所属の教員が担当する科目以外にも皆さんの関心により、履修が望ましい科目があります。そうした科目は、社会学部の他の研究分野が提供しているものもありますし、商学部、経済学部、法学部で政策、経済、経営、労働などに関する科目として開講されているものもあります。自分なりの履修プランを工夫してください。

・ 歴史社会研究分野 ・

「歴史社会研究分野」という科目群は、人間の世界において過去に生起したこと（「存在としての歴史」）を復元・認識するために、その素材である過去の痕跡としての史料（歴史資料）を厳密に操作する方法を学び、実際にその方法に基づいて、ある地域・時代の歴史を探究しようとするユニットです。

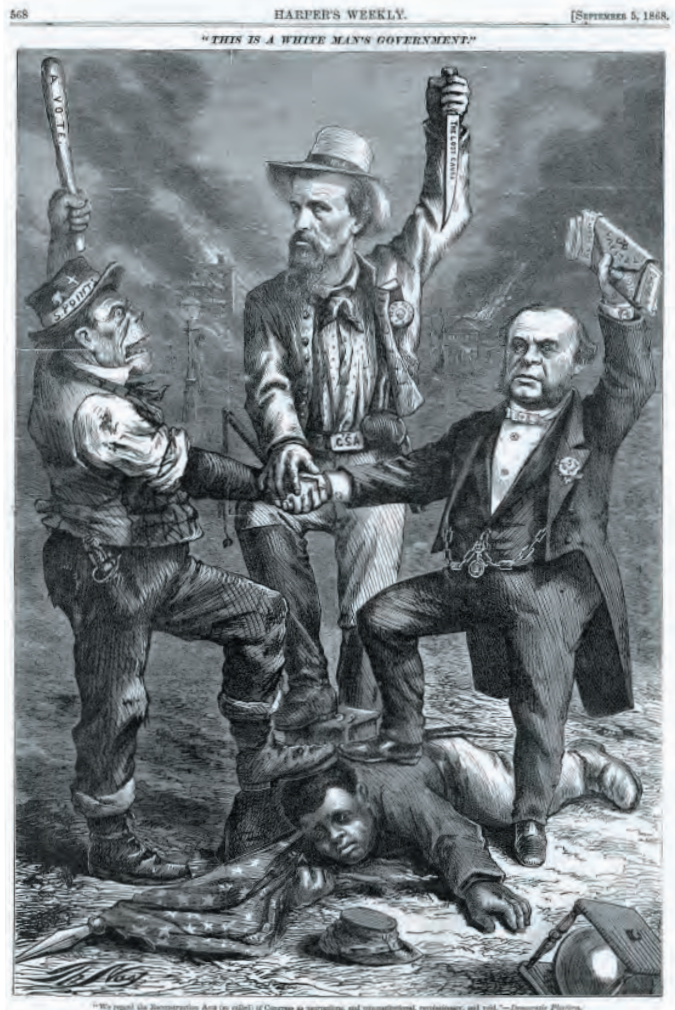


ギリシア神話で歴史を司る女神クレイオ（ラテン名クリオ）

1. 歴史学とは何か、「社会史」とは何か

「歴史社会研究分野」の最大の特徴は、この科目群の開講科目とその担当教員のすべてが、方法としての歴史学を用いていることです。それでは歴史学とは何でしょうか。私たちはそれを、人間の世界において過去に生じたこと（「存在としての歴史」）、過去における人間の物質的・精神的諸活動の総体を究明しようとする学問と考えます。その固有の方法は、（１）史料収集——それぞれの関心と主題に応じて、過去の痕跡である「史料」（歴史資料）を出来る限り大量に収集して、（２）史料批判——過去を復元・認識するために、学問的に厳密な手続きによりながら史料を批判・分析し、（３）歴史叙述——史料収集と史料批判から得られた知見を作品化することです。こうした歴史学の方法は、経済学、政治学、社会学、人類学、文学などの人文・社会科学研究の諸分野にも、また場合によっては自然科学にも取りいれられていますし、歴史学もまた他分野の最新の方法論を取りいれて発展してきた、それ自体が学際性のたいへんに強い学問分野と言えるでしょう。そのなかで歴史学の核心とも言える特徴は、ただ単に過去の事実に関心を寄せ、事実を明らかにすることにとどまらず、過去における人間の物質的・精神的諸活動の総体に内在している基本的な構造と発展の論理を究明しようとする、すなわち「全体」と「構造」に対する関心です。このように固有の方法を駆使して研究すること、歴史学全体としては体系を見出そうとしていることが、歴史学を単なる歴史好きから分かつゆえんなのです。

一橋大学は、日本の歴史学の発展に大きな役割を果たした歴史学者を多く生み出してきました。とくに、一国史的関心を超えた世界史的な視野と方法の開拓と、探求と関心の対象を常に社会の総体に向ける社会史の視点と方法の開拓のふたつの点で、一橋大学の歴史学は日本の歴史学に大きく貢献してきました。社会学部の科目群における「社会史」は、対象としての過去を国の歴史や個別化した政治史・経済史を超えた全体史として追求する一橋大学における学問としての歴史学の特徴を表現しています。個別の研究や授業の主題がたとえある時代・ある個人の思想や、ある国のある事件であっても、それが社会の全体とどのように相関していたのか、あるいは国の歴史を超えたどんな見方が可能なのかということに常に強い関心を向けるのが、一橋大学社会学部の「社会史」、「思想史」の特徴なのです。



歴史学では文字史料ばかりでなく、図像や記念碑など視覚的史料もときに扱います。新聞に掲載された諷刺画などから、公文書ではみえてこない人々の声が聞こえてくることもあるのです。（上：「これが白人の政府」1868年9月 Harper's Weekly）

2. 「歴史社会研究」の学び方

歴史学は以上のような学問ですので、系統的に学ぼうとする場合、とくに大学院進学に関心がある場合には、(1)文献・史料の読解力、(2)史料批判、(3)史料の分析と総合、(4)歴史叙述の方法について、それぞれ学問的な手続きを踏むこと、すなわち方法としての歴史学を習得することが必要です。

(1)については必要な語学力の修得が含まれますし、日本史でも「くずし字」など古文書の読解力を修得する必要があります。(2)では信頼できる史料とは何か、その史料を全体のなかでどのように位置づけたら良いのか、どのように使うことができるかなどを判断する学問的な手続きを習得する必要があります。これらの力をつけるために開講されているのが、社会史史料講読や古文書(中世、近世)です。

(3)、(4)を学ぶ主たる場はゼミです。1年秋冬学期と2年で履修できる社会研究入門ゼミ(期間は2学期=半年)で、歴史社会研究所属教員のゼミを受講することは、その入門としての意味をもつでしょう。さらに学部3・4年ゼミでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アメリカの各分野の歴史研究で必要とされる方法を総合的に学んでゆくことになります。

日本社会史、アジア社会史、ヨーロッパ社会史、アメリカ社会史の総論、そして日本社会史・思想史、アジア社会史、ヨーロッパ社会史、アメリカ社会史の特論は、それぞれ担当教員が個別の主題について開講する教室講義科目です。歴史学を系統的に学ぼうとする場合には、こうした歴史学関係の講義をできるだけ広く、その対象とする時代・地域の違いを問わず履修し、歴史および歴史学に関する基本的な知識を習得することが必要でしょう。

3. 履修モデル

「歴史社会研究」の所属教員の専攻は、日本、東アジア(朝鮮・中国)、ヨーロッパ、北アメリカの歴史です。これらのすべてにわたって講義を履修することが望ましいことですが、実際に史料を使って研究を進めるとなると、地域ごとに形態の異なる史料の読解・批判の方法の基礎を修得するのに多くの時間を要しますので、特定の地域の歴史を専攻することが適切です。そこで、「歴史社会研究」では「社会史日本」、「社会史アジア」、「社会史ヨーロッパ・アメリカ」の3つの履修モデルを用意しました。どのモデルも、2で示した「歴史社会研究」の学び方という点では共通していて、関心のある地域に応じて、学部基礎科目や学部発展科目で集中的に受講すべき科目、幾つかのなかから選択して受講すべき科目を図に示しました。図に示すために、一部科目名を簡略化していますので、実際に受講するときはシラバスでよく科目名を確認して履修するようにして下さい。

より具体的な履修モデルについては、教員に個別に相談するのが一番です。担当教員はそれぞれオフィス・アワーをもっていますので、事前に連絡したうえで相談することをおすすめします。



歴史研究はフィールド・ワークの学問でもあります。上：拓本風景

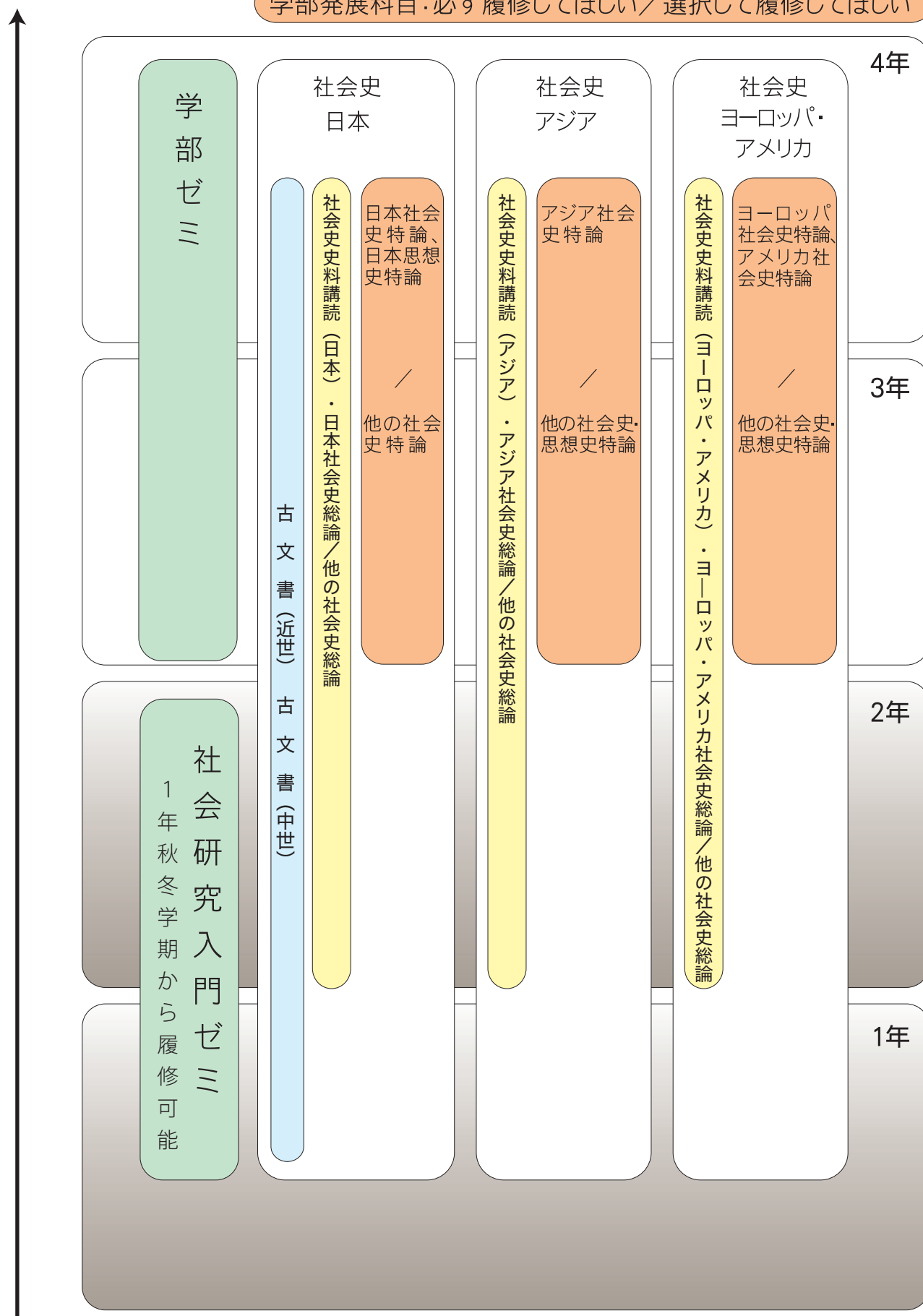
歴史社会研究の履修モデル

全員が履修または履修が望ましい

共通教育科目として開講

学部基礎科目：必ず履修してほしい／選択して履修してほしい

学部発展科目：必ず履修してほしい／選択して履修してほしい



大学院への招待

一橋大学大学院 社会学研究科

(右) 大学院生たちの研究室や社会学研究科の附属研究センターがおかれているマーキュリータワー（東キャンパス）

学部生の皆さんが学ぶ一橋大学のキャンパスには、学部とは別のもうひとつの「学校」があることを知っていますか。それが大学院です。学部で学んだことをさらに専門的に深めてみたい、また、社会の多様な領域で活躍していくため知的な基盤を固め実践力を徹底的に鍛えたい、さらに、研究者として知の先端と深淵を探究していきたい……。こうした、さまざまな形で一步先に進みたい皆さんに、大学院は開かれています。

● 大学院とは

大学院は研究科という組織に基本的に分かれており、社会学部に続く組織としては社会学研究科が用意されています。ちなみに一橋大学は、学部は4つだけですが、大学院は7つの研究科等から成り立っています。



大学院は、修士課程（2年間）と博士後期課程（3年間）という2つの課程から基本的に構成されています。社会学研究科の場合、修士課程は、社会科学の幅広い知識と深い問題意識によって支えられた研究基盤と高度な実践能力を備えた人材を育成することを目的としています。またこれに続く博士後期課程は、高度な専門性と豊かな学識、卓越した研究能力と自立性を備えた研究者を育成することを基本的な目的としています。

修士課程を修了した後、企業や官公庁、さまざまな市民活動に職を見いだそうとする方も、また博士後期課程に進んで研究の道を志す方も、社会学研究科はともに歓迎をしています。

● キャリアデザインの場合としての大学院

学術研究の水準が高度化し、また社会から期待

される専門知や知的な行動力の内容が高次化・多様化していくにつれ、学部教育だけでそれらに対応することは難しくなりつつあります。しかし大学院進学を考えようとするとき、就職など将来の進路に不安を持たれる方は少なくないことと思います。こうした不安に応えつつ、社会科学における先端的な大学院としての新たな可能性を具体化していくため、社会学研究科は多くの新しい取り組みをおこなっています。

たとえば、社会学研究科では、文部科学省の「大学院教育改革支援プログラム」の財政的援助を受け、平成19年度から21年度に「キャリアデザインの場としての大学院プログラム」を実施しました。同プログラムでは「高度職業人養成科目」という科目群を設置し、意欲ある院生が知的発信力や企画実践力、調査分析力、教育力などを養っていくことを可能にするための多数の授業科目を開設し



ました。その中には、英語での討論や論文作成による発信力を強化する授業や、アーカイブズに関する授業があります。また、大学の教員として講義をする力を身につけるために講習会や授業実習で構成される教育技能強化のコースを提供しています。

●2つの専攻——総合社会科学専攻と地球社会研究専攻

社会学研究科は、社会科学の分野において、専門性と総合性を併せ持つ研究者と学識ある高度な専門的職業人を育成することを目的としています。社会学研究科は、総合社会科学専攻と地球社会研究専攻という、目的や性格をやや異にする2つの専攻から成り立っています。受験者は応募の際にどちらかの専攻を選ぶことになります。ただしどちらの専攻に所属しても他方の専攻のゼミや授業を履修できるほか、上記のようなプログラムを含む共通の科目群が用意されています。

●総合社会科学専攻

総合社会科学専攻は、各専門分野における学術探究とその総合的発展を担う多様な人材の育成をめざしています。専攻は、6つの研究分野——「社会動態研究」「社会文化研究」「人間行動研究」「人間・社会形成研究」「総合政策研究」「歴史社会研究」——に分かれています。これらは、学部教育科目のグループ分けとほぼ対応しています。社会学部の学部教育科目を担当している教員スタッフがおもに教育を担当しています。

●地球社会研究専攻

地球社会研究専攻は、理論と実践を統合し地球規模の諸問題に取り組む能力をもつ多様な人材の育成をめざしています。もともと学部から独立した専攻としてスタートをしたため、学部教育科目のなかには対応する科目群はありません。ただし、本専攻の担当教員も学部ゼミを担当しているほか、社会研究入門ゼミナールや、一部の分野の科目を担当しています。

●大学院に入学するためには

社会学研究科は、修士課程定員が1学年90名（総合社会科学専攻70名、地球社会研究専攻20名）、博士後期課程定員が1学年41名（同じく35名、6名）です（2020年度時点）。修士課程、博士後期課程ともに、一橋大学以外の大学の卒業生や留学生も多数学んでいます。なお、毎年6月と11月に学内で説明会を実施しています。

修士課程：

総合社会科学専攻は9月、2月の2回、入学試験を実施します。地球社会研究専攻も同じく9月、2月に試験を実施します。このほか、社会人特別選考（総合社会科学専攻）、特別選抜（総合社会科学専攻）、外国人特別選考（両専攻）があります。

博士後期課程：

修士課程からの進学者、また他大学・他研究科からの編入学者ともに、試験はおもに2月末頃に実施されます。

●研究科の情報について

入学試験はそれぞれ内容が異なりますので、詳細は社会学研究科のWEBサイト(<http://www.soc.hit-u.ac.jp/>)をご覧ください。また、このほかの情報についても研究科のWEBサイトから得ることができます。



（右）マーキュリータワー内部
自主研究会をする院生たち

Faculty of Social Sciences



HITOTSUBASHI UNIVERSITY